

平成23年度

# 2回生進級時アンケート

高等教育研究開発推進機構

# 目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	3
1. 1 学習意欲の変化.....	3
1. 2 出席コマ数の変化.....	4
1. 3 授業外学習時間の変化.....	4
2 成績評価への納得度.....	5
2. 1 成績評価全体への納得度.....	5
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	6
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	7
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	8
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	8
3. 1. 1 科目群別の集計.....	8
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	9
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	10
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	15
3. 2. 1 科目群別の集計.....	15
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	16
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	17
4 全学共通科目への期待.....	23
5 期待は実現されたか.....	25
6 今後の全学共通教育への要望.....	26
6. 1 項目別集計.....	26
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	28
7 自由記述.....	31
7. 1 総合人間学部.....	31
7. 2 文学部.....	35
7. 3 教育学部.....	40
7. 4 法学部.....	42
7. 5 経済学部.....	46
7. 6 理学部.....	51
7. 7 医学部.....	56
7. 8 薬学部.....	60
7. 9 工学部.....	61
7. 10 農学部.....	77
【資料】平成 23 年度 2 回生進級時アンケート (KULASIS 掲載内容) .....	84



## 調査の趣旨と概要

対 象：学部新2回生（平成22年入学生対象）全員

調査の目的：学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とする。

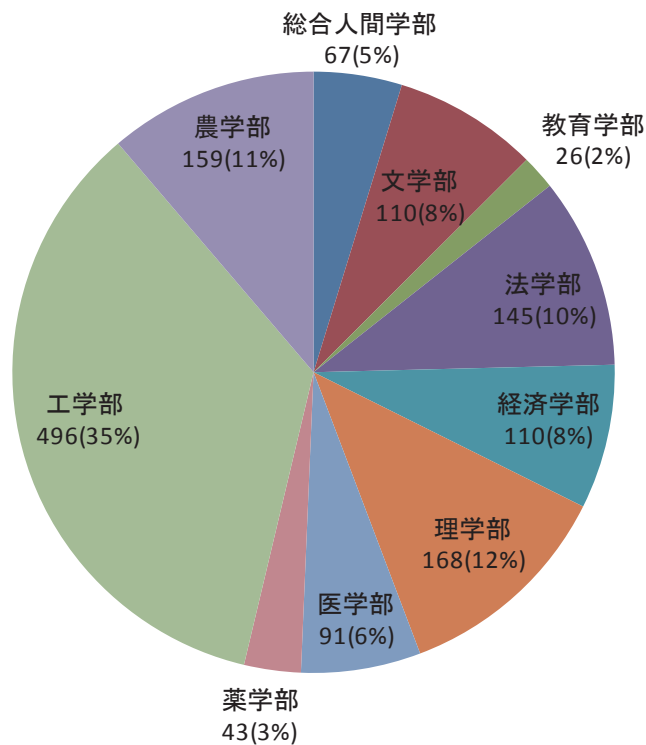
調査の概要：新入生ガイダンスの際、記入してもらった「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

調査方法：KULASIS（全学共通教育教務情報システム）上でのアンケート方式をとっている。  
平成23年4月、各学部新2回生が履修登録確認のためKULASISにログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらうという方式をとった（アンケート全文は末尾に添付している）。

表 0-1 学部別アンケート提出者数・提出率

学部	在籍者数 (2011/5/1 現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	123	81	42	67	54.5%
文学部	221	119	102	110	49.8%
教育学部	61	31	30	26	42.6%
法学部	342	244	98	145	42.4%
経済学部	260	214	46	110	42.3%
理学部	315	287	28	168	53.3%
医学部	258	126	132	91	35.3%
薬学部	82	54	28	43	52.4%
工学部	986	886	100	496	50.3%
農学部	317	213	104	159	50.2%
合計	2,965	2,255	710	1,415	47.7%

図 0-1 学部別アンケート提出者数・構成比



## 1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない  
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15コマ	1.5時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4コマ	3時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12コマ	

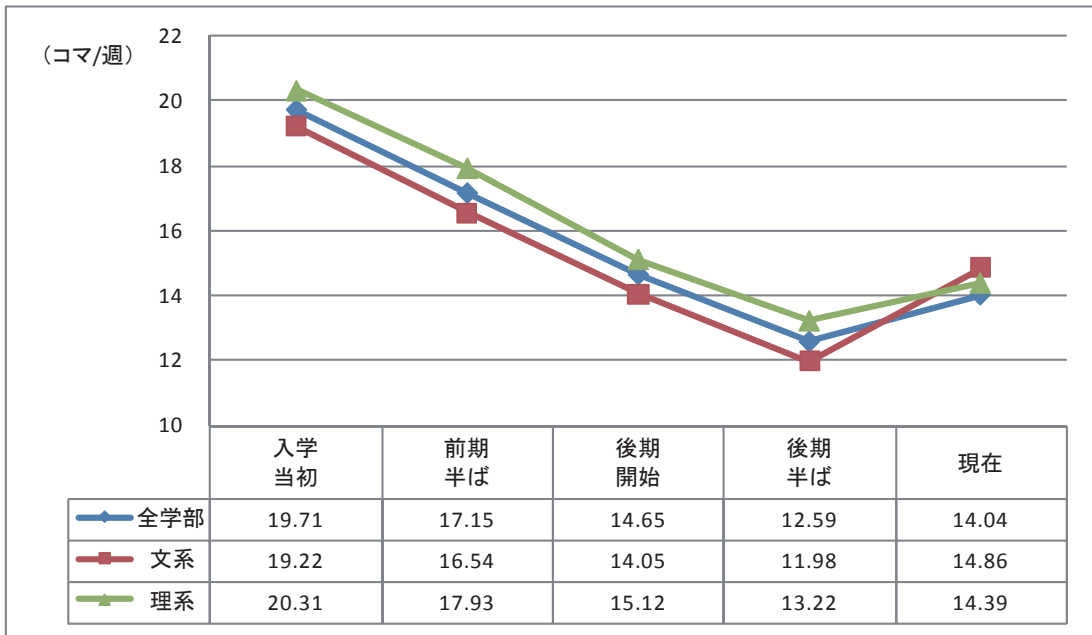
\*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

\*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

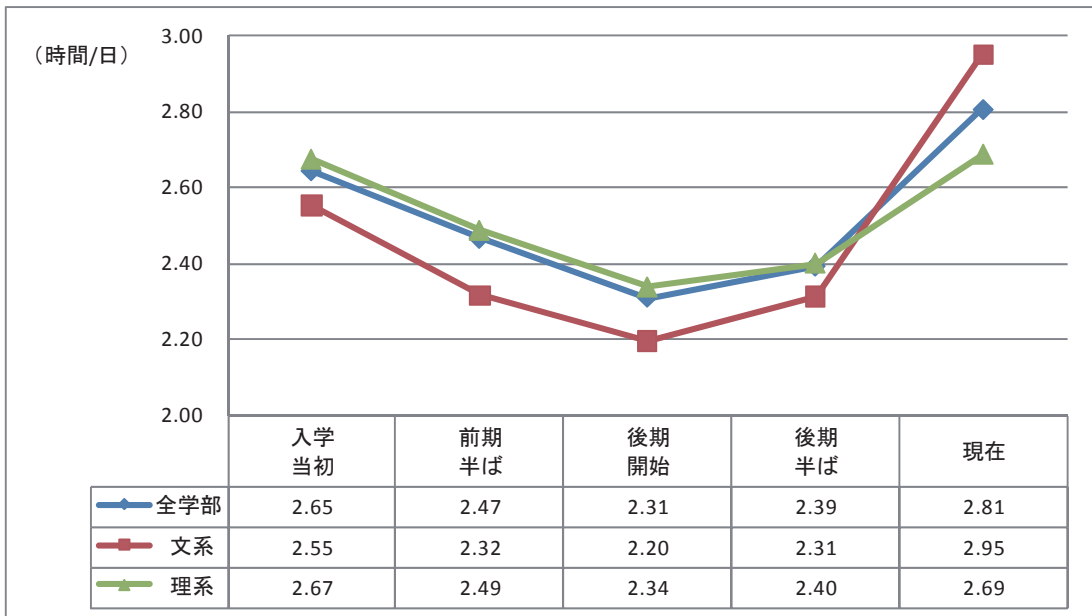
### 1. 1 学習意欲の変化



### 1. 2 出席コマ数の変化



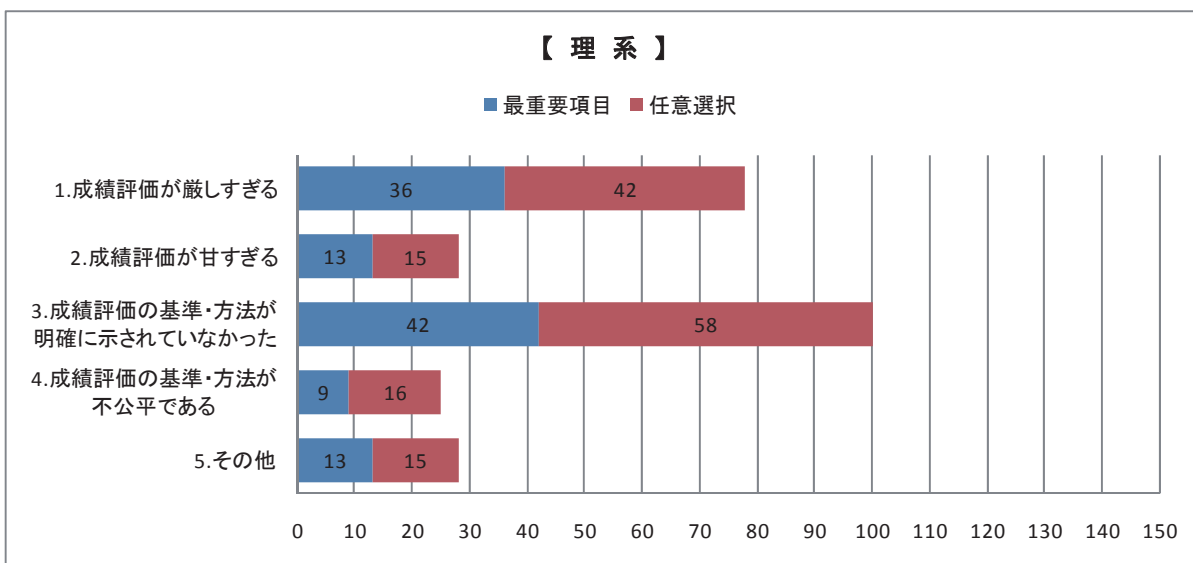
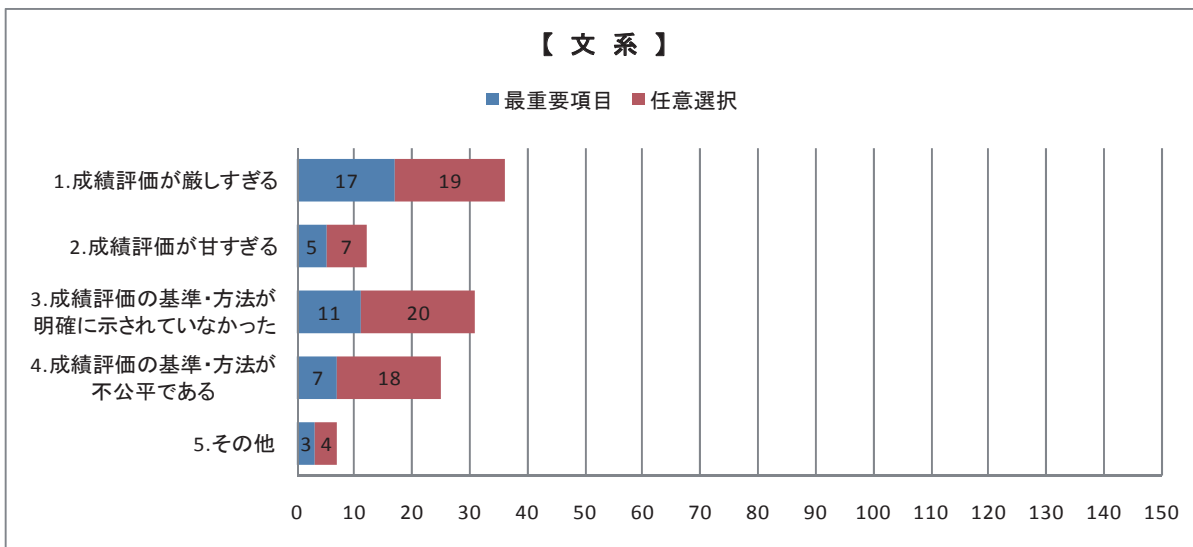
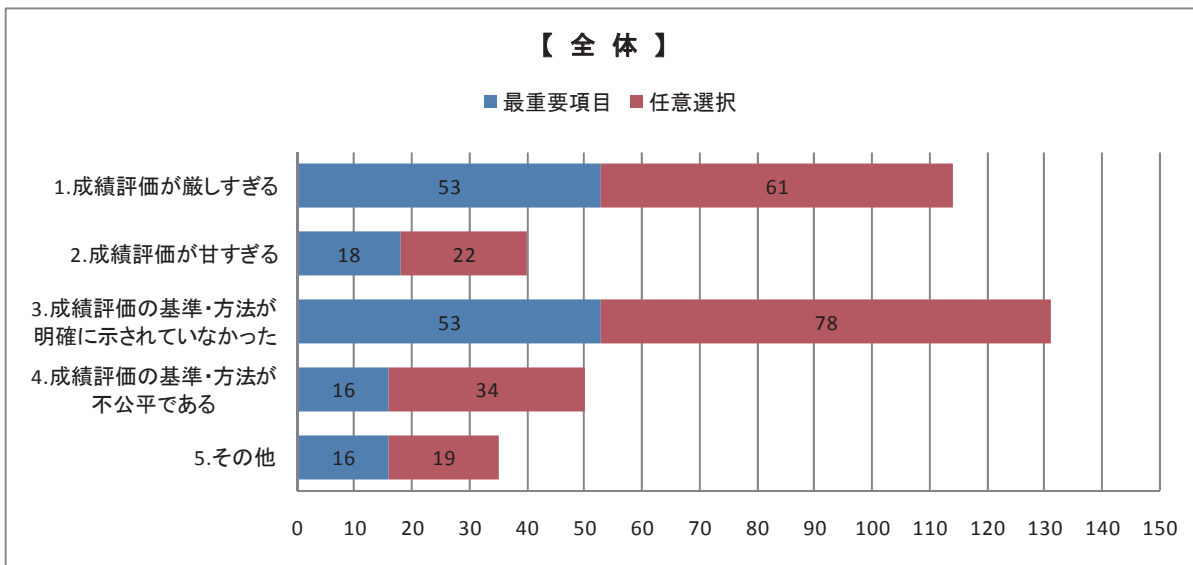
### 1. 3 授業外学習時間の変化







## 2. 2 成績評価に納得できない理由



## 2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

「納得できない理由」の「5 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、記述内容を掲載する。

なお、末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- 自分の勉強の意識がなさすぎた。【総人・男】
- 単純に、評価基準の多様さに自分がついていけないだけです。【文・男】
- クラス指定科目はクラスによって成績評価の基準にも成績の分布にも差があり過ぎる。  
【経・男】
- さぼった。【理・男】
- 教官の教え方があまりにもポンコツ過ぎて、面白いはずの科目がつまらなくなっている。給料をもらっているのなら、「ただ来るだけ」といった態度は反省すべきだと思う。語学はクラス指定で、肌が合わない先生のクラスでもとらざるをえない。デタラメな授業を受けないと単位がもらえず、時間ももったいないし、何より学生のやる気をそぐ。学問の自由を大学がうたうなら、学生に対して、教官を誰にするかの選択の自由を持たせるべき。さらには、語学は進級にかかわる。語学の教官選択だけはもっと幅を持たせるべきだ。【理・男】
- 答案を返却してほしい。【工・男】
- 「優」だと思ったのが「良」だったり、「良」と思ったのが「優」だったりした。【工・男】
- 履修登録でミスをしてしまい授業が取れませんでした。それでも授業が楽しいため出席し続けました。このミスは自己責任とはいえ、一日後に気付いてお願いしに行ったのですが、登録を許してもらえませんでした。単位のために勉強しているわけではないとはいえ、少しでも学部の二回生になった時の授業の数を考慮して語学だけでも単位を取らせていただきたいかったです。その辺の融通がきくようにしてほしいです。【医・男】
- 同じ科目でもクラス間に評価方法が異なる。【工・男】
- 自分の努力が足りない。【工・男】
- 「これをすればおおむね単位を与える」といったことをしても、落とされることが往々としてあった。【工・男】
- 自分の勉強量が足りなさすぎる。【工・男】
- 出席による評価の比重が比較的重く、生徒個人の努力が反映されていない科目が多いため。  
【工・男】
- 自分が情けない。【薬・男】
- 学業に対する姿勢が欠如しすぎている。【農・男】

### 3 「満足した科目」「不満だった科目」

#### 3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

##### 科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

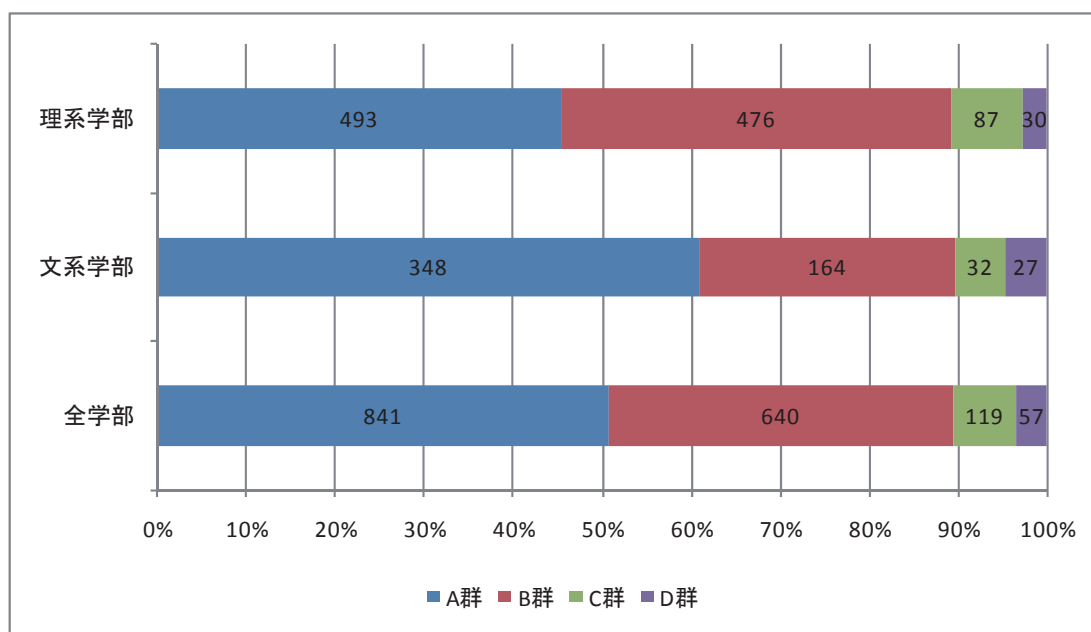
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

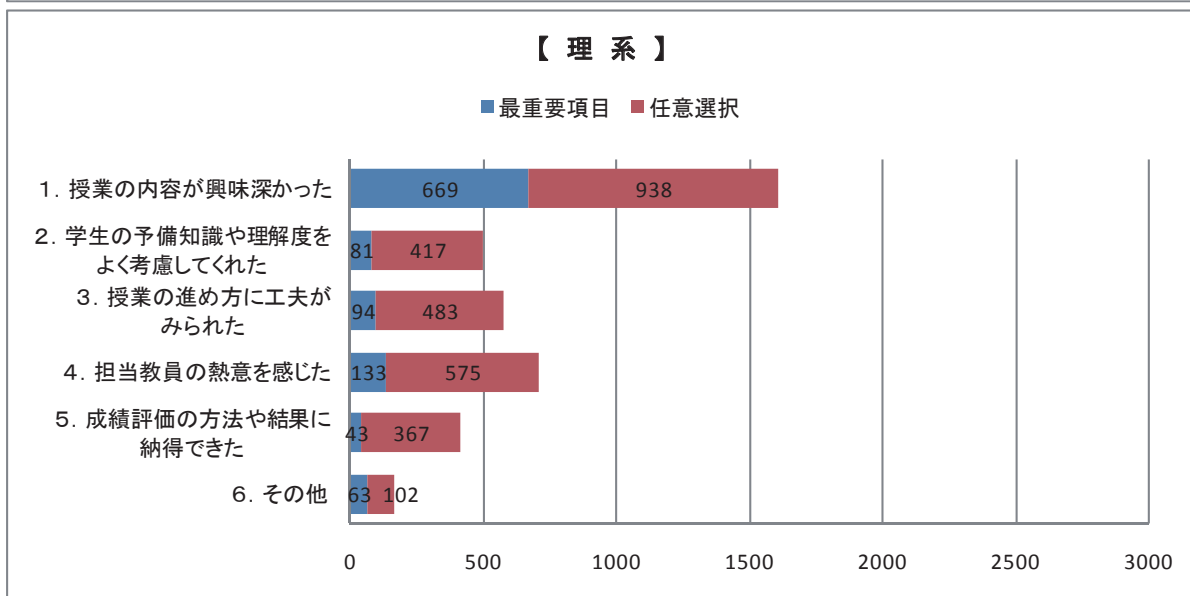
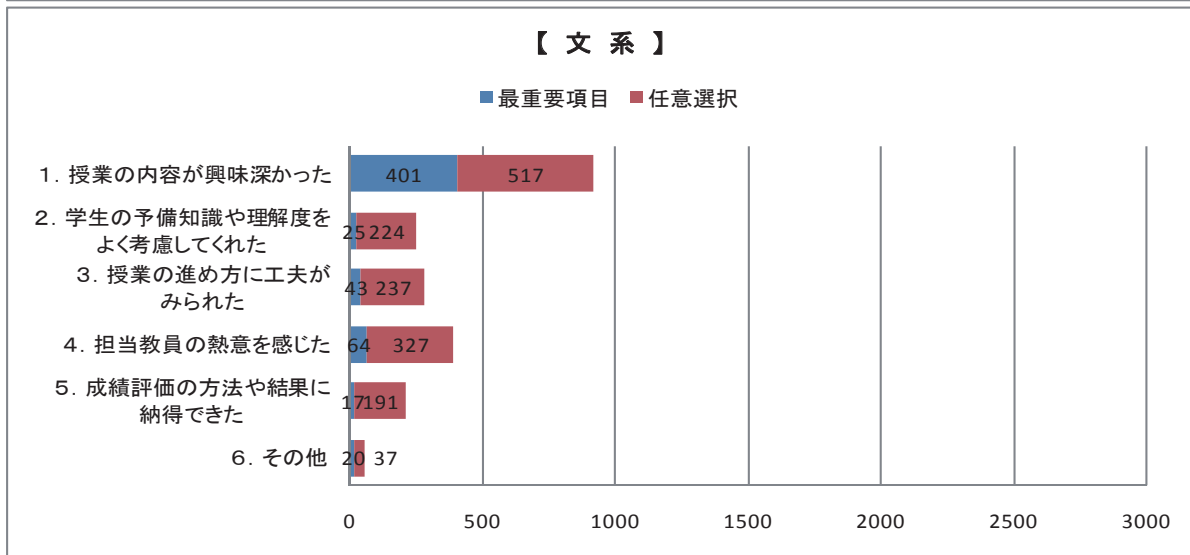
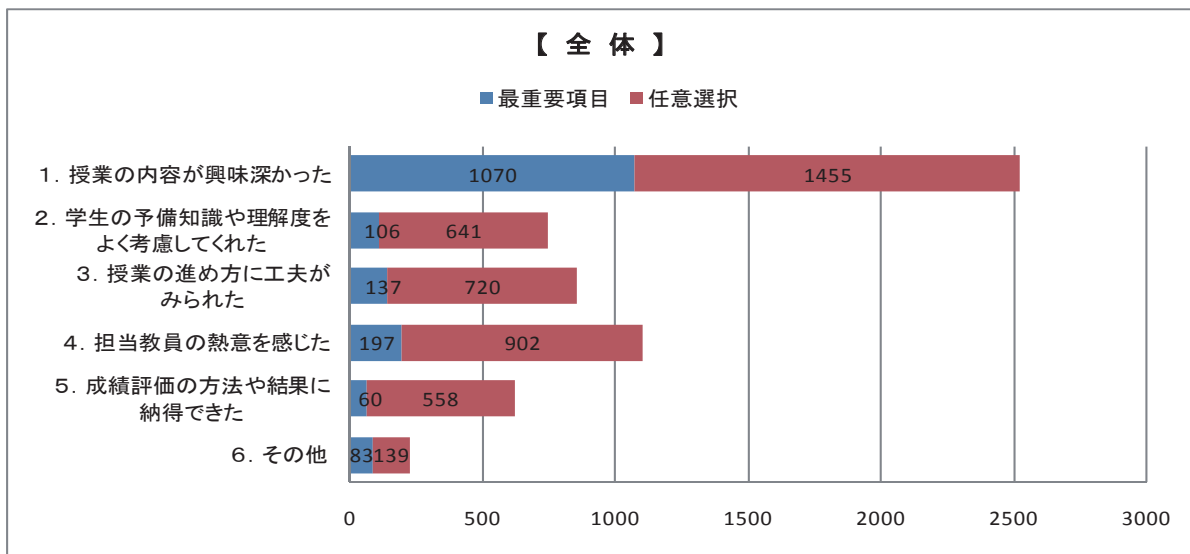
上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）

（以下、科目2、3も同様）

#### 3. 1. 1 科目群別の集計



### 3. 1. 2 「満足した理由」の分析



### 3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群、およびD群の別に、記述内容を掲載する。

なお、末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

#### ■ A群科目

- 将来進みたい分野が定まった。【理・男】
- 少人数で話し合うのは楽しかった。【医・男】
- 関連があり、話題になっていることに関わる人を招待して講義を行った。【工・女】
- ディスカッションを通して、授業に参加している学生から刺激を受けた。【工・女】
- 有名な教授の講義を受けることができた。【文・男】
- 大学生として必要な能力を習得する機会となった。【法・女】
- 教科書が良かった。【工・男】
- 色々な分野の話が聞けた。【農・女】
- 先生の歴史における注目点に興味があった。【工・女】
- ※※教授が実によかったです。【理・男】
- 授業の空気がよかった。【工・女】
- 単なる受け身の授業ではなく、学生に発言の機会が多く設けられていた。【農・男】
- 教授と個人的に話すことができた。【法・男】
- 大学の廃棄物処理施設の見学をさせてくれた。【薬・男】
- 留学生との交流に重きを置いてくれていた点。【総人・男】
- 学生側の意欲に応じてくれた。【文・女】
- 毎回毎回授業が楽しみでした。【工・女】
- 1回生のうちから論文の書き方のさわりが体験できたのはいい経験になった。【工・男】
- 能動的に学習できた。【総人・男】
- 授業中の雑談も含めて面白かった。【工・男】
- 周りの学生からからいい刺激をうけることができる授業だった。【経済・男】
- 話がよかった。【文・女】
- 先生が面白かった。【工・男】
- 具体例を多く用いた講義で、よく理解できた。【農・男】
- 先生のユーモア。【法・男】
- 英語で文を書く力を身につけることができた。【工・男】
- 得たものが多かった。【薬・男】
- 先生の話がおもしろかった。【薬・女】
- 授業の一環で、大阪の民族博物館に行ったのがとてもいい経験になりました。【農・女】
- 質問しながら講義を進めてくれたので、その都度自分で考えることができた。【理・男】

- 先生が自分自身の経験で教えてくれて、理解しやすかったです。【工・女】
- 毎回、住居などの建物の映像も交えて授業されていたので、分かりやすかったです。【工・女】
- 定期的なレポートで力がついた。【農・男】
- 前期の成績に少し悔しさを感じたので、それを上回るだけの学習がしたいと思った。【工・女】
- 自分で資料を探すことが楽しかった。【総人・女】
- 担当教員が博識で話が面白かった。【農・男】
- 他の学生達の学習意欲が高く、ゼミのレベルが高かった。【経済・男】
- 他の受講生や大学院生から刺激を受けた。【文・男】
- いわゆる「陰謀論」が目的ではなく、何が世界を動かしているのか、という重要なテーマが根底にある。生徒の意欲が授業の質を左右する。【法・男】
- 内容が幅広かった。【経済・男】
- 語り口が面白かった。【工・男】
- 自分を高められた。【教育・女】
- チョーク粉アレルギーって・・・【工・男】
- 楽しかった。【理・男】
- いろいろな所に行けて楽しかった。【農・女】
- 知らない他の学生と意見交換することで、交流する機会となった。【工・男】
- 教育についての考え・思想等がよくわかり、考えさせられる授業だった。【工・男】
- レポートのやりがいがあった。【農・男】
- 授業が面白かった。【農・男】
- この分野を専門とされる先生が数少ないと聞いたから。【工・女】
- テスト楽しかったです。【工・男】
- 本を読み様々な知識を得るきっかけになった。【農・男】
- 学生の学力を向上させることを真剣に考えてくれていた。【総人・男】
- 授業の後先生と語り合えるのが楽しかった。【法・女】
- 留学生の人たちと交流できた。【教育・男】
- 君らが日本を背負うんだ！のメッセージ。【法・男】

## ■B群科目

- 先生の話が非常に分かりやすかったです。【農・女】
- この先生に出会えて京大に来て良かったと感じた。【工・男】
- 板書によって授業を進め、ペースもある程度はやい。【医・男】
- とにかく大変だった。しかしその分達成感もあった。【工・男】
- 工学部クラスだからと言って、数学の厳密な議論をないがしろにしなかった。【工・男】
- 厳密に考えることを重んじ、実数論や関数族を論じることに多くの力を割かれていた。数学への思い入れと情熱に心を動かされた。【農・男】

- 実際に活動できるので楽しかった。【理・男】
- 必要な知識がよく身に付いた。【工・男】
- 数学の楽しさを教えてくれた。【理・男】
- レポート試験のやりがいがあった。【農・男】
- 私は高校で物理を学んでいなかったのですが、それでもよくわかるように授業を進めて下さいました。【工・男】
- 追試験の際に非常に温かく接してくれた。【工・男】
- 大学に来てよかったと思わせてくれた。【理・男】
- 教員の人柄がよかった。【工・男】
- 非常に難しかったから。【工・男】
- 大学らしい授業だった。【工・男】
- 先生との会話が楽しかった。【理・男】
- 質問しやすい雰囲気だった。【総人・男】
- 私語を許さない雰囲気作りが上手。【理・男】
- 自分の好きなことをより深く学べた。【農・女】
- ※※先生の回は、授業後に拍手が起こるほど面白かった。【総人・男】
- 実際に阿蘇山に研修に行くことができた。【医・女】
- 実習が面白かった。【教育・女】
- 楽しかった。【法・女】
- 教授が素敵だった。【文・女】
- 森林や河川の環境が沿岸海域の生態系に大きく影響するという、意外な関係を知る。豊かな生態系の維持と創出には人々の知識の共有が不可欠だと実感。【法・男】
- 先生がかっこよかった。【薬・男】
- ついて行くのが大変だったが、非常に知的好奇心に駆られ、刺激になったから。【農・男】
- 自ら参加し、発表する形だったため、やる気がでた。【理・男】
- ゼミ形式で、非常に濃い時間を過ごせた。【教育・男】
- 直接授業とは関係ない先生の話がためになった。【理・男】
- 教科書に沿っていて、分かりやすかった。【理・男】
- 授業を通して、生徒同士が交流できた。【工・男】
- 様々な分野のさわりを聞いて面白かった。話の内容もほどよく深くわかりやすかった。【農・女】
- 板書がとても整理されていて、なおかつ字も綺麗でした。【工・男】
- とてもわかりやすかったです。【工・男】
- ブーメランなど原理を説明するだけではなく、デモンストレーションをしてくれた。【工・男】
- 大人数の授業なのに、教員との距離が近かった。【医・女】
- 現代数学の雰囲気を感じられて、楽しかった。【理・男】

- 学部生にはわかりにくい、研究者としての心得のようなものを教えてくれた。【薬・男】
- アイデアを出すことや論理的に意見を出すことの大切さを学んだ。多くの化合物に実際に触って親しむ機会を得た。レポートの添削を徹底的にしてくれた。【農・男】
- 成績評価は甘めだったけれど、内容はわかりやすくて良かった。【工・男】
- 非常に分かりやすい授業で、内容がよく頭に入ってきました。【工・男】
- 授業内容を復習する演習問題があり、役に立った。【工・男】
- レポートに努力した。【工・男】
- 野外実習が貴重な経験になった。【農・男】
- 先生の人柄、教え方が面白かった。【医・女】
- 講師や教授ではなくカウンセラーの授業だった。【法・男】
- 先生と話しやすく、質問もしやすかった。【法・女】
- 分かりやすい。【工・男】
- 外国の大学との遠隔講義で、英語での授業だった。あちらの大学生のレベルの高さを知れた。【経済・男】
- ポケゼミで、非常におもしろかった。【教育・男】
- 授業が分かりやすかった。【理・男】
- 大学の研究というものに触れる良い機会が得られた。【農・男】
- 活動範囲が広く学外での実習が楽しかった。【工・男】
- 素晴らしい実地体験。【工・男】
- 逐次、授業内容に関係のある話をしてくださった。【工・男】
- 先生の持ってくる実験器具が興味をそそった。【薬・男】
- 授業がとてもわかりやすくて親切だった。【工・男】
- 先生がとてもユーモラス。【経済・女】
- 他での学習を生かした。【文・男】
- ほかの学生から刺激を受けた。【工・男】
- ※※先生万歳【理・男】
- 非常にわかりやすく、ためになった。【工・女】

## ■C群科目

- チームでのプレゼンが楽しかった!!!【文・女】
- 中国語の知識が向上した。【工・男】
- ネイティブの先生による生の発音が聞けた、質問がしやすかった。【工・女】
- 出席しなくても試験一発で語学の単位を出せるところに京大らしさを感じた。もちろん、かなり自分で勉強したが。【理・男】
- 納得のいく授業内容だった。教員のキャラクターも良かった。今期も習いたい。【理・男】
- レポートを詳しく評価してくれた。【工・男】



- 精神的にカッコイイ。後期授業を締める際の一文に感動した。【法・男】
- 個人的に努力出来た。【経済・男】
- すごく教え方がうまく、ロシア語に興味を持てた。文句なく最高の講義だと思う。【農・男】
- 授業内容とは別に、社会問題について教員が考えを話してくれた。【農・男】
- 外国語を楽しく有意義に学べた。【農・男】

#### ■D群科目

- ためになる上におもしろかった。【農・男】
- 個人の力量に応じた授業をしていた。【工・男】
- 先生が面白い。【農・男】
- 楽しく授業に参加できた。【工・男】
- 受講者同士のつながりができた。【文・男】
- What is Life?等を輪読したが、受講者の拙い読みを温かく見ていただき、サポートしていただいた。【農・男】
- 実力制で楽しかった。【農・女】

### 3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

#### B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

#### 科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

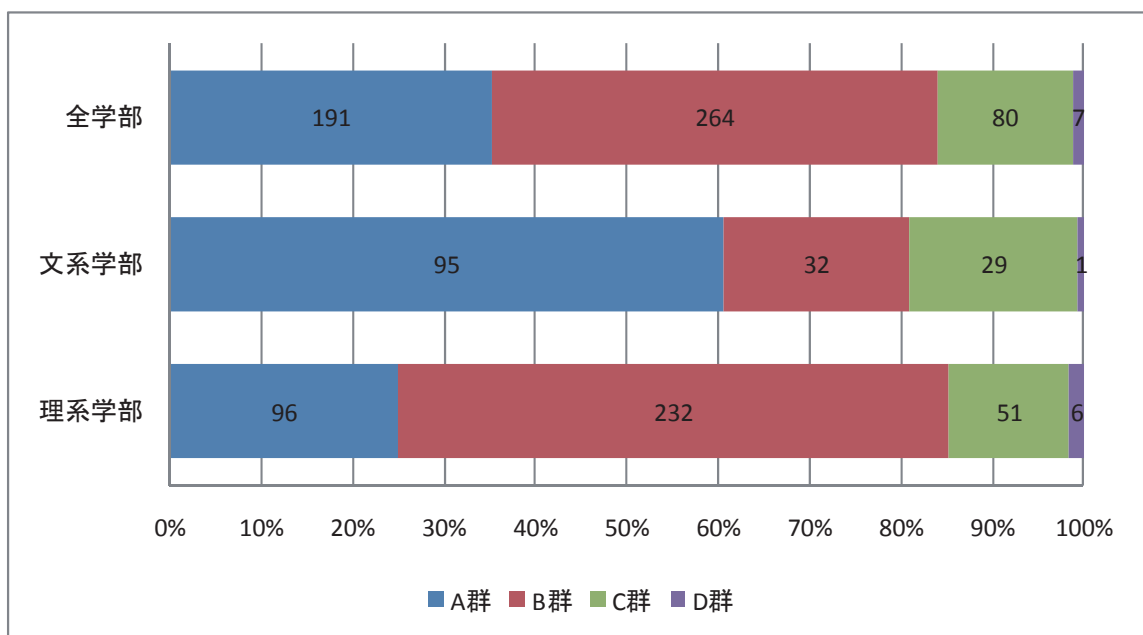
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

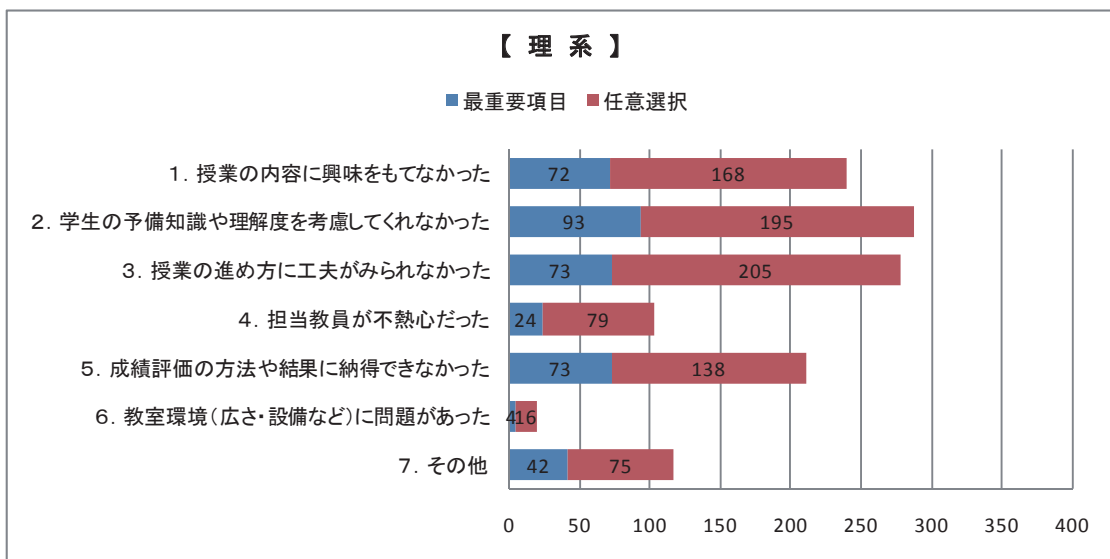
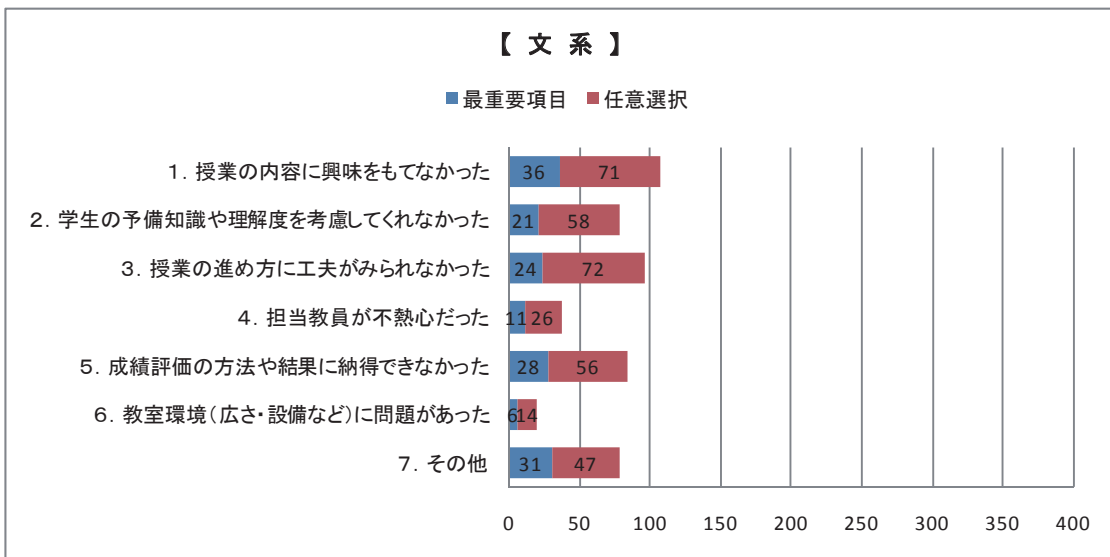
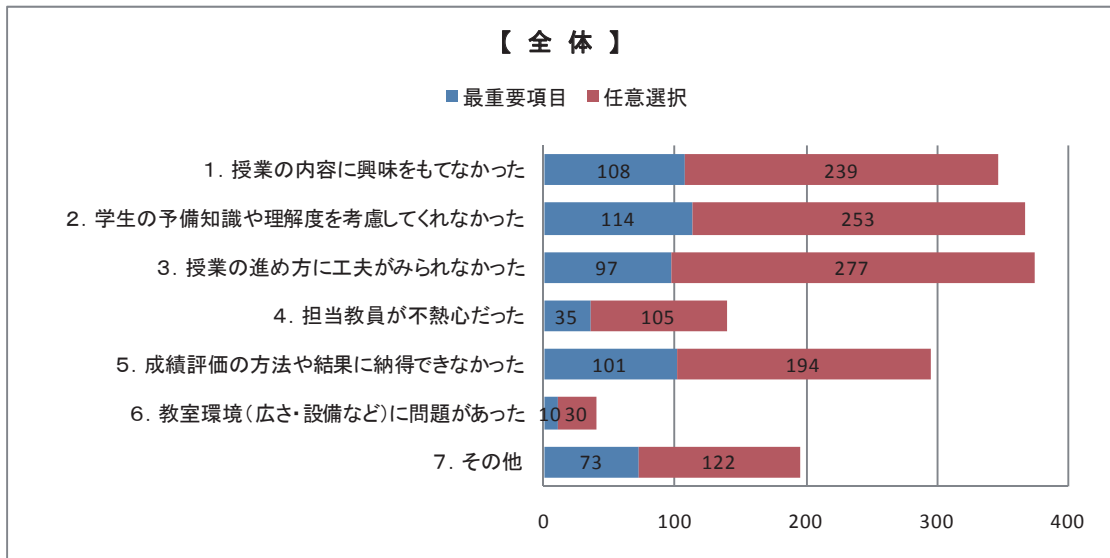
上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

(以下、科目2、3も同様)

#### 3. 2. 1 科目群別の集計



### 3. 2. 2 「不満だった科目」の分析



### 3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群およびD群の別に、全記述内容を掲載する。

なお、末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

#### ■ A群科目

- 先生の話している内容が全く理解できませんでした。【工・男】
- 教科書が全く理解できなかった。【経・男】
- 1限は早い。【文・男】
- シラバス内容が不十分だった。【工・男】
- 授業は体系的で、板書も丁寧。指導内容に不服はありません。しかし、レポートが「手書き」指定であったり、PCを授業で使ってはいけない、など、ちょっと現代の大学の講義としては考えられないことが多々ありました。全く無意味な強制だと思います。信じられません。  
【経・男】
- センター試験レベルの内容も多く物足りなかった。【文・男】
- 教員の声がかもっていて、前で聞いても全く聞こえなかった。【教・女】
- 学生を高圧的に威圧、恫喝した。【経・男】
- 少しだけ教員のエゴがみられ、やや不快だった。【文・男】
- 教員の英語力。【農・女】
- 授業がぶつぶつぶつぶつと、教員がつぶやくだけだった。信じられない。【経・男】
- 教員の休みが多かった。【教・女】
- 先生の授業の仕方に不満がある。【農・男】
- 毎回教授が15分以上遅刻・延長をするので次の講義に遅れてしまう。【法・女】
- 講義開始、終了時間が全く守られていなかった。【薬・男】
- だって58って・・・ちゃんと授業出て勉強もしたのに・・・【理・男】
- 教官の英語力が不足。留学生の質問にきちんと対応してないと思う。【総人・男】
- 事実だけで関連性が無かった。【医・女】
- 教授が怖すぎた、教授の機嫌に生徒が振り回された。【教・女】
- 受講学生が不熱心だった。【文・女】
- 授業方針が一貫して不明瞭であった。【法・男】
- レポートを出したにもかかわらず成績に反映されていなかった。【農・女】
- もっと板書が欲しかったです。【工・女】
- 講師の声が小さすぎる。本人はマイクは必要ないとのたまっているが絶対いると思う。  
【工・男】
- 教員の声が小さくて聞こえなかった。【工・男】
- 板書の内容がへたくそ。ノートを見返しても授業内容が思い出せない。【経・男】

- 毎回出席し、テストも大量に記述したにもかかわらず不可だったから。【経・女】
- 板書のスピードが早く、量も多い。その割には時間をあまりとらずにどんどん進み、板書を取りきれずに消されるという事態もあった。また板書をとるのに一生懸命になりすぎて、教授の話をしつかりと聞くことができなかった。内容は興味深かっただけにちょっと残念。  
【教・男】
- そもそも先生に能力があるのか疑問。こちらの質問に適切に答えられていない。【法・男】
- 休講ばかりで、結果シラバスと成績評価の方法が異なっていた。【工・女】
- 興味深い内容であったが、教室が静かであるにもかかわらず授業を進める声が聞こえないほど小さかったため不満であった。【総人・男】
- 教員が終わってる。【法・男】
- プリントを1枚だけ配り、後は板書せず口頭、というスタイルについていけなかった。  
【文・男】
- 担当教員の授業態度に難あり。【医・女】
- 遅刻してくるし、授業が延びる。【文・男】
- お忙しいのは分かるが、休講やビデオを見る回が多かった。【文・女】
- 毎回出席して授業聞いているのにわからないぐらいテストがト難しすぎたから。【経・女】
- 授業とさえ呼べない。【法・男】
- 毎回外部から講師を招くという講義形式だったが、講師によって講義の充実度にかなり差があった。【文・男】
- 難易度が高く、授業も早く進むので、ついていけなかった。【文・男】
- 前方の席に座っても教員の声が聞き取り辛かった。【教・女】
- サテライト授業をやることにのみ教授が意義を見出しており、講義の質が毎回高いとは言えなかった。【法・女】
- 教員が学生の存在を意識しているのかわからないほどの、独り言のような授業。【理・男】
- 教科書が高い上に、興味を持たない内容だった。シラバスでイメージしていた内容とは大きく食い違っていたため、愕然とした。【工・男】

## ■B群科目

- 博士の愛した数式について、「ただオイラーの公式に $\pi$ を代入しただけ」と発言するなど科学の面白さを伝えようとする配慮に欠けている。また、合格か不合格かしかつけない評価方法もどうかしてほしい。【工・男】
- 教員がクソ。【法・男】
- 授業速度が速すぎる。【理・男】
- 教え方が下手だと思います。【農・男】
- 毎回の宿題の問題文や模範解答に誤謬が多すぎた。【工・男】
- パワーポイントが見にくかった。【工・男】

- 難解な知識だけを一方的に提示するような授業で、何の役にも立たなかった。【工・男】
- 予備知識がないのに、全く説明もなく偏微分や grad 等を授業で用いていたため、理解が全くできなかった。【工・男】
- スクリーンに映されるレジュメが見にくく、わかりにくかった。【工・男】
- 書きながらしゃべるな、片方に集中したい。数学屋さんのための数学で、物理で応用することを考えてくれていない。演習問題が学生のレベルにあっていない。まとめると全体的に独りよがり。学生が目線が白かった。数学は面白いものだと思っていたが、やる気をそがれた。授業内容も難解で、自分で本を読んで勉強し直した方が早かった。むしろ受けなきゃよかったと後悔した。クラス指定科目の担当に、この教官はなってはいけないと思う。【理・男】
- TAの方が授業内容を事前に予習していないような様子で進み方が遅かった。【工・男】
- 試験が難しすぎた。【工・男】
- 失礼ですが教員に向いていないと思います。せめて教科書だけでもわかりやすいものを選んでください。【工・男】
- ポケットゼミなのにゼミっぽくなかった。【法・男】
- 毎回ぺちゃくちゃしゃべっている学生がいて、イライラした。【医・女】
- 難しかった。何を質問すればいいかすら分からなかった。話の行く先もよく分からなかった。【文・女】
- レポートの量が多すぎてすごく負担になった。【工・男】
- 教員が遅刻してくるのに説明が早くわかりにくい。【工・男】
- 教員が授業慣れしていない。板書が薄く、字が汚くて読めない。教員が無断欠席する。【理・男】
- 私が数学をあきらめるきっかけとなった。【理・女】
- テストの出題量に対し時間が短すぎる。【総人・男】
- 詰め込みすぎ。【理・男】
- 毎回毎回別の教員がバラバラなことについて語るだけで、この授業自体の主旨が不明。身にならない。教員自身が「意味がない」と思っておいでです。【総人・男】
- 教科書通りの授業だった。【農・男】
- 求めていた内容とまったく違っていた。【文・女】
- わかりにくかった。【工・男】
- 担当教員の自己満足の授業だった。【農・男】
- 教える気が全く見られなかった。【工・男】
- 話がまとまっていない。【工・女】
- 難易度が高すぎる。【農・女】
- 先生がうっとうしかった。【薬・男】
- テストの意図が不明。【工・男】
- やる気を削ぐほど内容が簡単すぎた。【工・男】

- 提出したレポートに対するフィードバックが無いので、自分の講義への理解度が不明。  
【理・男】
- 難しかった。【経・男】
- 板書が見にくく、何を言ってるかわからない。【工・女】
- 授業も教科書も全く理解できるはずのない授業だったと思います。【工・男】
- 先生の声が小さすぎた、字が汚くて小さかった、内容もあまり意義を感じられないただの暗記だった。【理・女】
- 先生のせいではないが、内容が詰め込みすぎだった。【工・男】
- もう少し厳密にやるべき。【医・男】
- 板書の量が多く、書き写すのが大変。ポイントが分かりづらい。【理・男】
- 聞こえない。マイクを使った方がよい。内容は満足。【理・男】
- 何が重要なかがわからないので知識の羅列にしか見えませんでした。【工・男】
- 学生の授業参加態度の悪さ。【理・男】
- 学生に対して「上から目線」で、学生を小馬鹿にしたような発言をする教員がいた。また、課題のレポートの量が多すぎる。【農・男】
- 教科書どおりの授業だった。【農・男】
- 高校で生物を履修している必要はない、とシラバスに掲載されていたにも関わらず、用語などの解説をしてくれなかった。【農・男】
- 分かるよね？と言って一人でどんどん授業を進める。【工・女】
- しゃべっている声を最前列に座っても全然聞きとることができず、ただひたすら教科書の内容を書き進めて、いつの間にかどんどん進んでいて本当に授業をする気があるのかと疑った。【農・男】
- まず形式から。声が小さい、早口、滑舌が悪い。また板書も字が非常に汚く、数学として大事な  $i$  や  $j$  といった文字の見分けがつかない。これだけでかなりの意欲は削がれる。授業内容も、教科書をただなぞるだけでありながら、1人で教科書を読んでいた方が理解が進む。教科書に載っている定義を言っただけで次に進み、演習もしなかったりと配慮も感じられない。わからないところを聞きにいったら「そこは授業で説明しました」と言い説明してくれない。授業でわからないから聞いているのにひどいと感じた。今まで数学は好きだったが、この授業のせいで嫌いになりそうだった。こんなひどい授業は初めてだった。【経・男】
- レポートの提出期限が他の曜日の受講生に比べ短く不平等。(月曜日の受講生は土日を含まず金曜にレポートを提出するため、他日程に比べレポートを書く時間が二日ほど短い。レポートを書く時間を多くとれないならば他日程の人よりもレポートの質が落ちるのは当然。しかし書く時間の短いために質の低くなった月曜日程の受講生のレポートを他日程のレポートと同じ評価方法で評価すると悪い評価になる。けれどもこれは不平等なのではないかということ。)【農・男】
- 地学の授業だと思って受けたのに、期待はずれだった。【文・女】

- 板書を書くのが速すぎる。【理・男】
- やる気を削ぐほど内容が簡単すぎた。【工・男】
- スライドが稚拙。【理・男】
- 内容が高度すぎて質問がしにくかった。個別で質問ができる体制があれば嬉しかった。【工・女】

## ■C群科目

- 先生が毎回のように遅刻した。【経・男】
- 毎回毎回10分遅れてきて10分オーバーして終わったため次の授業の開始時刻に間に合わないことが多々あった。【文・男】
- 採点基準が厳しすぎる。【医・男】
- 教材の内容が不適切だった。【農・女】
- 声に覇気がなく遅くて単調なので何を言っているかわからない。【農・女】
- 自分の本を買えば単位をもらえる、というのはいくらなんでもおかしい。【文・男】
- 教師の性格に問題があった。【文・男】
- ※※先生は良かった。※※なんかを講師として招いていることが理解不能。【文・男】
- 淡々と訳すだけの作業。正直面白みが全くない。出席点が無いのも原因だろうが、最終的に出席人数は5人程度。しかし印象としては、教師が生徒の訳を見下すように一掃したりと、この授業に人が来ないのも仕方ない、と思った。【経・男】
- 端的に言えば、英語ではなく命題論理学の授業であった。【農・男】
- 要領の悪い説明がだらだらと続き授業延長(10分以上)が頻繁に起こった。【文・男】
- テストに問題があった(授業で提示した英文とテストで課された英文が全く同じ文であるため、英作文能力の度合いを見るのには全く意味を成さない)。【農・男】
- 教員の無駄話で授業が終わることが頻繁にあった。正直なところ英語に関してはほとんど習わなかった。【文・男】
- 授業前の負担が重いことはあまり気にしていないが、せっかく書いてきた英作文に対して何も評価等がなされず、書いただけで自分の学力向上にはまったく役に立たなかった。せっかく外国人の先生なのだから、生徒が書いた英語を手直しするぐらいのことはしてほしい。【工・男】
- スペイン文化に興味もてるよう工夫をしてほしかった。興味がないと、勉強は続かなくなってしまう。先生はスペイン文化もよく知っているのだから、それを伝えてほしかった。学生が聞きたいのはそういう話です。文法知識なんて本で十分。【理・男】
- 教員が嫌みっぽ過ぎる。いやいや授業している。【法・男】
- しばしば授業が延長され、次の授業に遅刻することもあった。【農・男】
- 取り上げた題材の内容が人を不愉快にさせる内容であった。【農・男】
- 課題の量が多すぎた。【薬・男】



■ D群

- 学生の質が低く、講義中も私語が気になって先生の話に集中できない。最前線の先生の熱意を感じられるせっかくの講義が、不真面目な学生のせいで台無しになっている。【農・男】





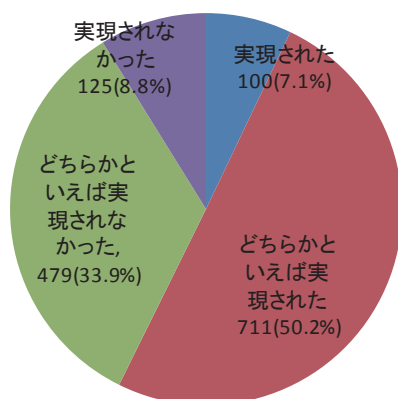
## 5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

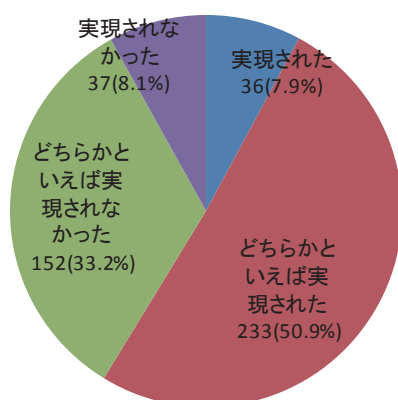
- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された            | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった      |

### 5. 1 全学共通教育への期待は実現されたか

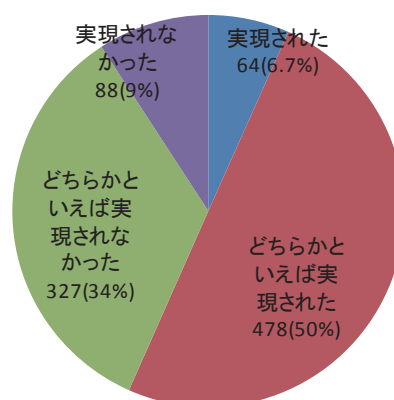
#### 【 全体 】



#### 【 文系 】



#### 【 理系 】



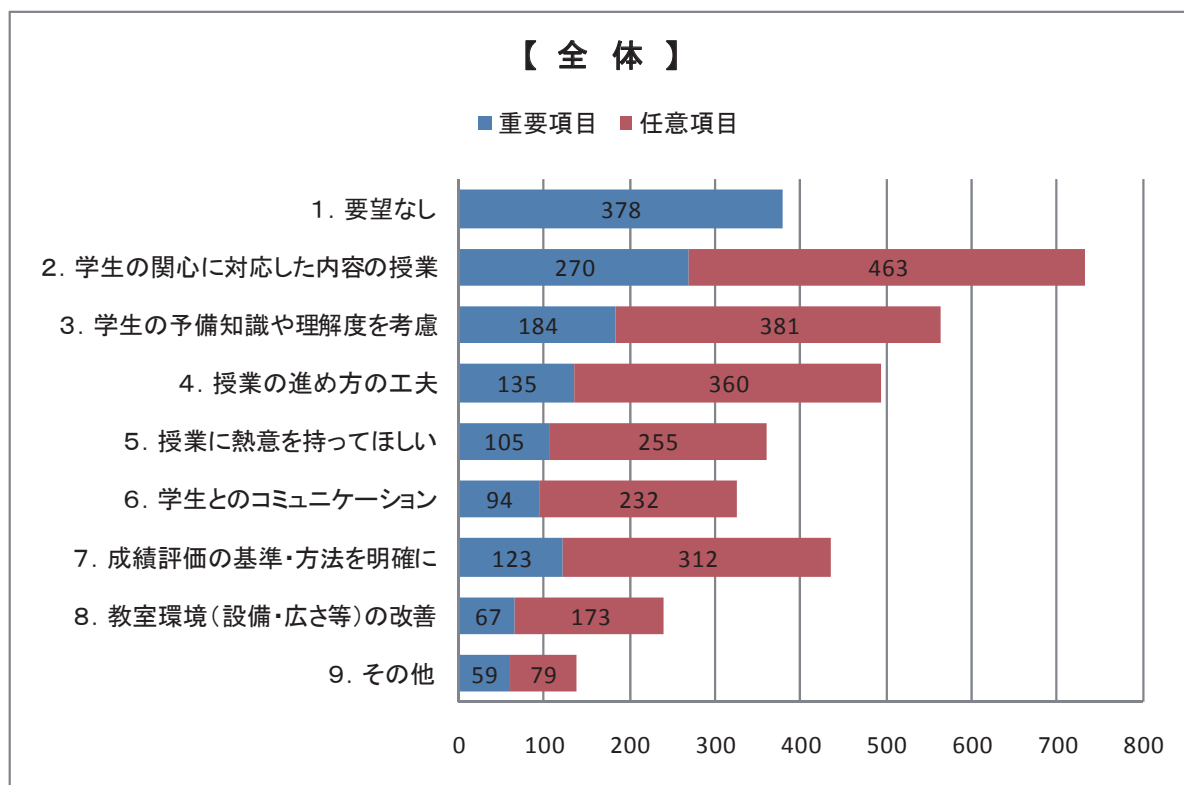
## 6 今後の全学共通教育への要望

問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべてのものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

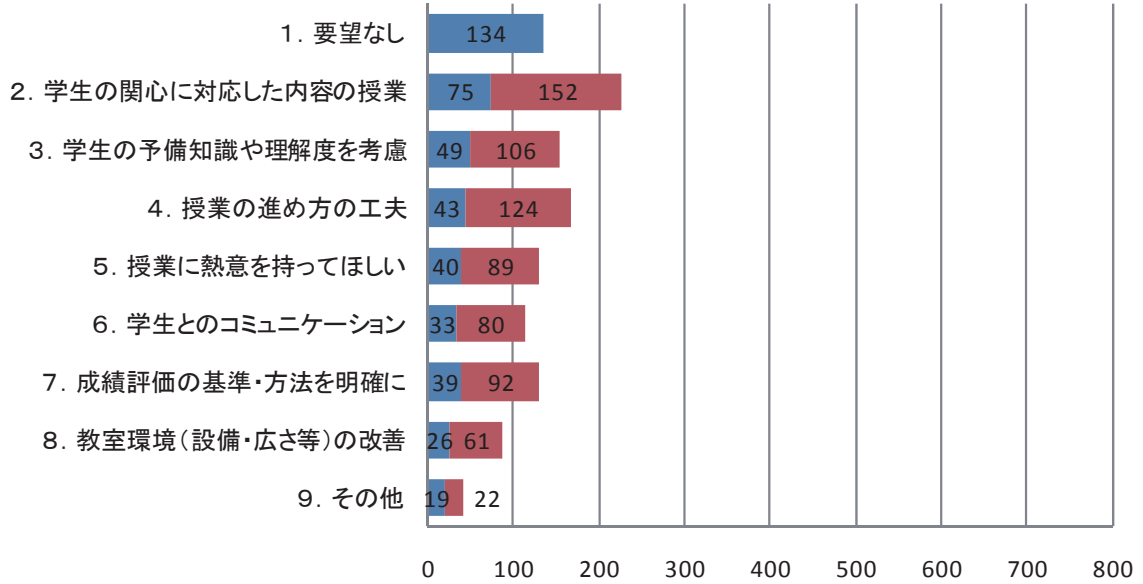
上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

### 6. 1 項目別集計



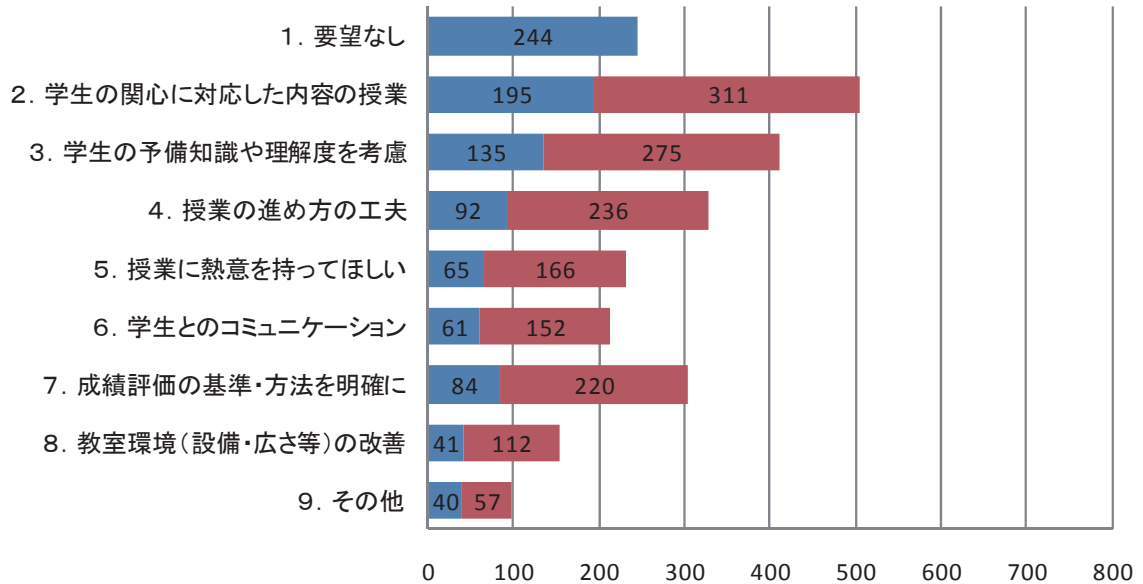
## 【 文 系 】

■ 重要項目 ■ 任意項目



## 【 理 系 】

■ 重要項目 ■ 任意項目



## 6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

「改善の要望」の「9 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、記述内容を掲載する。

なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎同じ授業名でも教員間で成績評価の基準に大きな差がある場合がある。【理・男】
- ◎同じ科目名間でのレベル差（単位のとりやすさなど）をなくしてほしい。【工・男】
- ◎履修制限をもっと緩くして、1回生でも難易度の高い科目をとれるようにしてほしい（今でもおおよそなされていますが）。【医・男】
- ◎海外の学生との交流に予算を割いて欲しい。【工・男】
- ◎ポケットゼミナールはとても良かったので、さらに拡充してほしいです。抽選で落ちて、結局やらないでしまっている人は気の毒に思います。また、授業数15回を守らせることはあまり意味がないように思えます。重要なのは回数より密度なのではないでしょうか。【農・男】
- ◎キノコ系の科目を後期でもやってほしいです。【医・女】
- ◎より生徒が能動的になれるような授業が望まれる。【理・男】
- ◎学科指定科目の幅をもっと広げて欲しいです。【工・男】
- ◎ちょっと難しめの変った授業がほしい。B群で。【理・男】
- ◎「クラス指定」が足枷になってとりたくてもとれない教科がいっぱいあったのでなんとかしてほしい。【理・男】
- ◎ポケゼミに参加できなかったのが非常に残念。【理・男】
- ◎もっと実用的な語学教育を。【経・男】
- ◎出席を重視してほしい。【理・男】
- ◎そもそも研究者と教育者を区別すべき。【総人・男】
- ◎出席せずに単位を取れる状況が許しがたい。【薬・男】
- ◎もっと楽に単位が欲しい。【文・男】
- ◎応用的な科目、ゼミを増やしてほしい。【工・男】
- ◎気軽に他分野を学習するため、取るべき単位の分野の制限を緩くしてほしい。【理・男】
- ◎紙のシラバスがもっと早く手に入ると嬉しい。【農・女】
- ◎私は、テーマは原則として自分で発見するものだと考えているので、授業や先生方に過度に期待すべきではないと思う。【法・男】
- ◎全てにおいて満足だ。【薬・男】
- ◎授業をもっと面白くしてほしい。出席で評価しないでほしい。【理・男】
- ◎寝ている人はほっといてほしい。それで授業止める必要はない。眠いときは眠い。【工・男】
- ◎KULASIS との連携をもっと強くして欲しい。特に配布物や講義スライドのアップロード等、復習に役立たせられるような配慮があると嬉しい。【教・男】

- ◎単位より大事なものがあるのでは？【理・男】
- ◎無駄に出席を重視するのをやめてほしい。【農・男】
- ◎先生の声が小さすぎて聞こえないときがある。【農・男】
- ◎シラバスの内容の充実を図ってほしい。【工・男】
- ◎第二外国語の撤廃。【理・男】
- ◎冬休みを元の長さに戻してほしい。【農・男】
- ◎もっと自分の授業を行ってほしい。【工・男】
- ◎色々と厳しいなあと感じました。【工・男】
- ◎語学以外はすべて1コマ2単位で統一して欲しい。【工・男】
- ◎興味を持って履修したい科目の抽選をなんとかしてほしい（単位目的の履修よりも優先してもほしい）。【農・男】
- ◎シラバスやガイダンスだけでは授業内容が全然分からない科目も多くあり、期待していたのと違う授業だったことが多くあったので改善をお願いします。【工・男】
- ◎板書をしない授業は結局わかりにくい先生が多い。スライドを飛ばしているだけで、教員の理解度すら分からないのはいかがなものか。【医・男】
- ◎同名の講義をいくつか開講してほしい。【工・女】
- ◎大学コンソーシアム京都是文学部以外で単位が認められるようにはなりませんか？【医・男】
- ◎グループワークやプレゼンテーションの機会をもっと増やすべきだと思います。一般教養レベルの授業で、トップダウンの一方的な授業は、あまり建設的とは思えません。【経・男】
- ◎授業中にしゃべったりして授業を妨害することに対して、もっと注意してほしい。とくに大講義室での私語があまりにもひどすぎる。中にはちゃんと注意をする人もいるが、一部だけである。注意を義務付けるか、注意用の人員を大講義室には配備してほしい。【農・男】
- ◎私語など授業を邪魔する学生を排除したい。【農・女】
- ◎抽選申し込みをもっとすみやかに行えるようにしてほしい。【教・女】
- ◎ハーバード白熱教室のように自由闊達な議論を授業中に促してほしい。【法・男】
- ◎第二外国語を必修から外してほしい。【経・男】
- ◎自分が専門としたいことの研究方法や先達の話などの専門への導入。【文・男】
- ◎パワポの使い方をもっと考えて。【農・男】
- ◎体系的知識を得られるようにしてほしい。【理・男】
- ◎基礎講座をもっと開いて欲しい。【総人・男】
- ◎第二外国語の2年間必修をやめてほしい。【経・男】
- ◎生徒とのコミュニケーションをもっととってほしい。【理・男】
- ◎履修登録についてミスをして、もっと寛大な措置を取ってほしいです。自分で言うのは愚かしいですが、意欲ある学生をつき落してまで履修登録を許さない、そこまでしなくてもよいのではないかと思います。【医・男】
- ◎授業を分かりやすくしてほしい。【工・男】



- 単位を取るためだけが目的の学生のせいで、意欲のある学生の履修登録が妨げられる現状は看過できない。【理・男】
- 成績評価方法を見直してほしい。【農・男】
- 「身になる」(実用的、という意味ではありません)授業を望みます。【総人・男】
- 学生の自主学習を重んじてほしい。【農・男】
- 科目数は揃っているので、それを選ぶ目を身につけていきたい。【法・男】
- 講義内容がつまらなさすぎるため、授業内容の見直し。【工・男】
- もっと単位を取りやすくせよ。【文・男】
- シラバスに載せた成績評価をきちんと実践してほしい。【理・男】
- 授業形態等の透明化、授業目的の明確化、抽選制度。【文・女】
- もっと先生に楽しんで授業をやってほしい。もっと好き勝手にやってほしい。【農・男】
- 生物、化学選択に物理を必修で課すのには無理があることを理解して欲しい。【農・女】
- 広い教室で行う講義についてはもっと板書の字のサイズを考慮してほしい。【理・男】
- おもしろい先生をもっと増やしてほしい。ゼミ形式、英語講義、遠隔講義をもっと増やしてほしい。【経・男】
- レポートを詳しく添削してほしい。改善点が全く見えず、成績にも納得できない。【工・男】
- シラバスでは面白そうでも実際には全くそうではないものがあるので、しっかりと工夫をして興味を持てるような授業をしてほしい。シラバス補正がかからないようにしてほしい。【教・男】
- 学生【工・男】
- 先生自身が今本当に面白いと思うことを教えてほしい。できるだけ生の体験を。【総人・男】
- 授業に出ることを強制するのはやめて欲しい。【工・男】
- 演習を増やしてほしい。【薬・男】
- 数学の質問コーナーのように、化学も質問コーナーを作って欲しい。【工・女】
- 興味を持って単位にならない科目が多く、履修しにくい。【工・男】
- 抽選、募集制限の緩和。【経・男】
- 語学の授業を選択できるようにしてほしい。【法・女】
- 教員を選べない、クラス指定科目であっても教員の変更を行いたい。そう思うほどの教員がいた。【経・男】
- ゼミナール形式の講義を増やしてほしい。学生に教員を評価する紙ないしはアンケートをとるなど、教員の評価も必要だと思う。【農・男】
- 毎回テーマをもって、もっと分かりやすく伝えるということに意識を傾けてほしい。【総人・男】
- パワーポイントを読むのではなく、あくまで補助として使い講義をしてほしい。端的にいえば、パワーポイントの使い方が下手な教員が多いと思う。【農・男】

## 7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

●は男子学生、○は女子学生の回答である。

### 7. 1 総合人間学部

#### 【文系】

●当然だが勉強の主体はあくまでも自分。

○いろいろな分野の学問に触れることができよかったです。文系・理系の枠にとらわれず、自分の興味関心に沿って選べたのですごくいい刺激になりました。

●一回生の英語の授業はクラス指定なのが不満だ。

教材がとてつまらなかった。

ほとんどの授業は教員が熱意を持って進めてくれていたのでとても面白かった。

●席に座って教員の話聞く形態の授業が嫌だった。授業が面白くなくてフェードアウトしていった。（より面白いものに傾倒していった。）

後期は能動的に活動できる授業をとって見たが生活が不規則になって授業に出席できなくなった。体力がないので大学の授業以外のことをやると出席する体力のキャパシティが余っていなかった。

それでも1回生では授業にいかないで自分の好きなことばかりしていたので2回生はちょっとだけ授業を頑張ってみようかなと思っている。

●名前と乖離した科目が多い。芸術学基礎論と謳っておきながら、全然芸術の基礎など身に付きはしない。もちろん、内容の面白さは、それとは別の話だが。もっと的確な科目名称は付けられないのかと思う。

●「グラフィックデザイン」などの魅力的な講義や、「意思決定論」というような実践的なものまでバリエーション豊かな授業が多くて、楽しかったような気がする。

○自分が勉強したいと思えることが見つからなかった。

●普段の生活ではきっと知り得ようもないようなことに触れる機会を持てたことは本当によかったですと思います。

○すごくおもしろい先生の授業に出会って、新しいことに大いに興味が持てた。

進路について考え直すきっかけとなった。

●教員のやる気の無さが半端なかった。

- 全学共通科目の幅広さとその量には十分驚いたし、充実していて勉強のやりがいがあった。一方で、その数が多いのに1回生はじめにいただいた全学共通科目の冊子（分厚い本2冊）が十分に整理されておらず見にくかった。今になって見返すと「取りたかった」というような授業もあった。たとえば、学問分野別（哲学・思想、法・経済、農学など）に分類して掲載する、などしてくれていると見やすく、教養科目を分野偏りなく取ることができるのではないか、と思います。
- 私は公務員試験を受けようと考えているのですが、その試験対策ともなる憲法、法律、経済などの授業を受けて学ぶことができたので、その点は良かったです。
- 全学共通科目で卒業単位が集められることが今の僕にとっておおいにありがたいです。いつまでも続いてほしいと思います。
- 高校までの授業とはまた違った面白みがあった一方で、試験対策でなにをすればいいのかわかりにくいものもあった。
- これから専門的に勉強していくこととはあまり関係なさそうな分野（数学、化学、物理など）を教養として学ぶことができ、有意義でした。理系科目もそれぞれ文系用や初修者用の科目が開講されており、履修しやすかったです。
- いろいろな分野に触れる機会をもつことができよかったです。
- 文系として入学したが、総人ということもあって理系科目（特に生物）にも手を伸ばそう、そして般教をその足掛かりにしようと考えていたが、結局自分の怠慢もあって生物関係の講義を殆ど落とし自分で芽を摘んでしまった。しかし本当の関心がやはり兼ねてからの言語学にあることに改めて気づき今期からの方向性が定まったという収穫もあった。他に、色んな分野をつまみ食いしようとして物理・化学・地学系の講義もいくつか履修したが、思わぬことにこちらは新しい発見が多々ありとても有意義であった。すべての学生に開かれているというのが般教の特性であり魅力でもあるし、単位うんぬんでなく興味の赴くままに、三回生、四回生になってもつまみ食いは続けたい。
- シラバスの対象学生の欄の全学向、文系向、理系向という区分や対象回生がどのような基準で決められているのか知りたい。
- ええかんじでした。
- 自分の取り組み方次第で、大変意義のある講義になる。予備知識がなくても、自分が興味のあることなら自分で勉強すると思うので、わからないのが全て先生の責任とは一概には言えない。全くわからない・難しすぎる、というような講義はほぼなかったように感じる。やる気がなくなると、ただの時間の浪費になる。講義中は先生が板書していなくても、先生の発言内容をノートに書くようにすると、眠くならないしテスト対策にもなる。一度休むと、そのあとも休みがちになることが多いので、やむをえない理由がない限りは出席することをお勧めします。全学共通科目にこそ京大らしさがあると思う。
- 自分が将来やりたいことと大学で勉強していることがあまり関係がないことにとっても悩んだ。

## 【理系】

- 僕は総合人間学部に入りましたが、素直で優しい人が多くて、いいところだと思いました。今年も総人のもっとたくさんの人と仲良くなりたいです。
- 全学共通科目ではひとつの授業で内容を浅く・広く体系的に教えるべきだと思うが、リレー講義にしてしまうと内容が浅くなりすぎてその授業を選択しても結局知りたいことの大まかな流れさえもつかめず意味がないように感じたのであまり必要ないと思う。あと、どれが面白い授業かということは2, 3回授業に出てから出ないと判断できないので適当にいろいろ取ってみてつまらなかったら授業を放棄するといったとり方がいいように思えた。
- 教員のティーチングスキルが低すぎる。専門科目ならまだしも、共通科目の時ぐらいはそれぞれの教員が自分は研究者ではなく教育者なのだと自覚してもらいたい。
- 一年間、大学で学ぶことに対する考え方が未熟なまま、過ごしてきました。その一年間で、皆の様々な意見を聞き、あの頃よりも進歩できていると思っています。それをこれからの学習態度で示していきたいです。何より自分のために学習するということを、これから忘れず努力します。
- バイトや部活動で忙しく、勉学に集中できなかった。
- 全学共通科目の数が多すぎて、よほど目標のはっきりした人でないと迷った末に窒息してしまうと思いました。
- クラスのシラバスの検索機能は便利でしたが、対象回生で絞込みができると、より助かります。またシラバスは暫定的なものでもよいので、春休みに履修する科目を考えられるように、できるだけ早めに配布していただけるとありがたいです。
- 1度は授業に来ないと単位が取れないようにしてほしい。
- 内容が薄い全学共通科目は廃止して、読書を勧めた方がよいと思う。あと、経済学部が進んでゼミを行っているのに対して、なぜ総人が行わないのかが不思議。他学部聴講を行う事を熱心に進めるべきである。教養を大切にしておきながら、実際問題学部の講義をとるような感じを受ける。しかも、授業はただの講義ならばDVD授業の方が、効率がよい感じがする。総人はもっとゼミなどアクティブさをもっと押し出すべき。
- 全学共通科目の中には今まで学んだことのなかった分野も多く、自分の視野が広がったように思います。
- 入学当初はどう勉強すればよいか全く見当がつかなかったけど、一年過ごして、ある程度の見通しは立ったと思います。
- もっと入門科目を増やしてほしい！  
特に、複合的な分野を扱う学問の入門編みたいなのがあればいいと思います！
- 興味がありそうな授業が語学やクラス指定で取れなかったことが残念だった。なかなか授業が難しく、ついていけず嫌になることもあったが、例えば※※先生のように考えてくれている先生もいたため、頑張ろうと思えた。

- 意欲が削げてしまったと思います。
- 講義に関心を持って積極的に勉強できるかどうかは、自分の興味が半分と、先生の人柄が半分だと思いました。つまり、自分の興味ある分野なら、先生が退屈でも勉強が楽しいし、先生の人となり自分が自分とよく合うならば、その分野に興味を持つようになるし、両方ともそろっていればもう何も言うことはない。ということです。
- 様々な授業を体験したが、これといって興味を注げるものは少なかった気がする。おもしろかった授業も中にはあるが。  
単位取得が楽すぎるため、勉強する必要がそこまでなく、深入りする前に終わってしまいがちである。かといって、厳しすぎるのも困る。  
あと、1限が辛い。
- 京都大学の全共を知ることが出来てとてもよかった。
- 学生間、教員間、教員と学生間の温度差をすごく感じた。教室の後ろで喋ってばかりの学生や、学生に理解させる気のない教員がいるのは一向に構わないのだが、学生生活においてそのような人間を目にするのも嫌なので、学生には講義に出なくても単位が与えられるようにして、大学に来ないようにしたほうがよいと思う。やはり講義に出るというのは、何か得るものがあるべきであり、教科書に書いてある内容だけならば、家でも勉強はできるし、京大生の学力を上げるために出席をさせているというのならば、自発的でない学習など高が知れているので止めたほうが良いと考えます。
- 時折、先生方の知性の煌めきのようなものを感じることができました。
- 総人という学部柄、時間割のほとんどが一般教養。幅広い知識を得たり、さまざまな考え方に多く触れることは確かに重要なことであろうが、それらはやはり一本の筋を自分の中で通してこそ生きるものではないだろうか。  
総人といえど、やはり専門科目はもっと必要だと思う。  
例えば、自然科学系に進むものは理学部の学生と同等の講義を受けつつ、副専攻もしっかり修めるべきだと思う。そうしなければ、「創造的統合」はいつまでたっても実現できず、多数の器用貧乏を排出して終わるのではないか。
- 受講した全学共通科目のうち、ほとんどがさほど関心を持てなかった、あるいは教員が学生の理解度を考慮せず進めていたと感じたものであったが、中には講義が本当に面白く率先して出席したいと思った授業もあった。その数少ない「面白い授業」からは新しいモノの見方を教わったり、今後の大学生活における大まかな目標を発見させてもらった。  
また、授業そのものにはあまり興味を持てなくても、課されたレポートの作成を通じて面白い発見を得ることが度々あった。  
特に、自分とはまったく縁がないと思っていた分野の本をレポートのためと割り切って読んだ時、意外にも関心のある分野との関連性を発見したことがあり、やはりどんなに面倒でもレポート作成にはきちんと取り組むべきだと感じた。

## 7. 2 文学部

- 様々なことを広く深く学ぶことができると入学当初は思っていたが、全学共通科目の履修を終了した現在は、授業はあくまでも、その授業で扱うテーマへの入り口でしかないと感じている。世の中はいかに分からないことだらけであるかがよく分かった。専門が始まる来年度からは積極的に取り組み、自分の能力が及ぶ範囲で精一杯様々なことを学び、研究したい。
- 僕は文系なので、数学や科学といった理系分野にはあまり関心がありませんでしたが、B群科目を受けてみて、多少はそれらに対して興味を持ち、見識を広げることができたと思います。
- 様々な学部の人と仲良くなるきっかけになって良かった。
- 1年前は学習に対する若々しい意欲を持っていた僕ですが、いまではすっかり単位の走狗と成り下がってしまいました。今年は学習意欲を再び取り戻し、血肉となる勉強をしたいです。
- 楽しいです。専門の単位がそろったら、興味のある一般教養の科目をとりたい。
- 文系なら理系、理系なら文系科目に対するアプローチというのは、自分から勉強をすすめない限り、全学共通科目がおそらく最後の機会になり、自分の視野や思考範囲が広がることも少なくなります。しかし、文系・理系に関わらず、幅広く知識を持っていることが柔軟な思考につながり、新しい発想が生まれます。大学という様々な研究分野が一同に集まる場において、その専門を研究されている先生方の講義を受けることは非常に意義があると考えます。
- 前期は全学共通科目に対して期待が大きすぎて、現実とのギャップがあり、また大学での学びの不慣れもあって、授業をさぼりがちになってしまった。後期は自分が興味のある分野に偶然出会うこともでき、有意義なゼミもとって、たのしく過ごせた。英語の writing の授業が楽しかった。
- 一般教養とはいえ、ある程度深い内容を取り扱ったものがほとんどであり、そこが良くもあり、悪くもあったと思う。
- 全学共通科目という割には、授業で扱う内容が専門的すぎます。  
例えば、後期の水4に「ウイルスと生命科学」を取りましたが、高校時代に生物を選択していない自分には、内容が難しすぎて、正直講義の内容の1割程度しか理解できませんでした。（あるいは、生物を履修していても分からなかったかもしれません。それほど難しい内容でした。）このような状態のままでは、全学共通科目の履修は無意味のように思えます。
- 私は文学部ですが全学共通科目では生物や地学など理系の講義をはじめ様々な分野について勉強することができてよかったです。一方で内容が物足りないものも多く講義によって充実度にかなり差があったのは残念です。特に文学部は一回生で専門科目がほとんどないので全学共通科目でもっと「うけごたえ」のある講義が受講したかったです。正直、この一年で語学以外あまり具体的に得たものがないような気がします。  
またプレゼンテーションやディスカッションなど生徒がより主体的に参加する講義がもっとあったらよかったですと思います。

○自分の興味のある分野の可能性が少し見えてきたかな…と思いました。

●抽選に落ち続けている人がかわいそう。

●期待していた勉学生活とは全く違った一年だった。もっとガリガリ勉強しようと思っていたのだが、結局、自分のモチベーションのせいなのか、授業のせいなのか、それは成らなかった。しかし、決してためにならなかったわけではないと思う。身に付いたものは、確かにある。この教養がこの先どのように効果を発揮するかはわからないが、かけがえのない数少ない教養として忘れないようにしたい。

今年から専門科目が始まり、教養科目からは離れるが、教養科目の履修を通して学んだことを存分に活かし、また一年前の自分に合わせる顔が無いような生活をこれ以上送らないように心がけたい。

○全学共通科目を通して、自分の興味ある分野以外にも、さまざまな分野について幅広く知識を得ることができ、とても楽しかったです。専門の先生方の熱意ある指導を受け、より学問に興味を持つことができ、自分の教養をより深めることができましたと思います。

●入学当初は高校までの授業との違いに驚き、困惑することもあったが、しだいに慣れていき無事に一年を過ごすことができた。全学共通科目の受講に関しては、提供側(教授や事務の方々)よりも受ける側の学生に問題があるように思われます。つまらないからといって講義に出なくなったり、勉強もせずに試験に臨んで思わしくない点数を取ったりするのはひとえに学生の意識の低さを痛感するものであります。ただ学生に対して講義の特徴等(高校までとの相違)に関するガイダンスが充分に行われていないのも事実です。まだやる気のある入学当初にそのような案内があれば、たとえ関心が薄れたとしても講義に出なくなるようなことも少なくなるのではないのでしょうか。また文系学部に関しては自分の専門への導入となるような授業が少ないように思われます。たとえば歴史の講義で研究の方法やその歴史、京都大学での研究の成果などを教授から講義内で教えていただくことはほとんどありません。全学共通科目が専門科目への橋渡しになっていない感があります。今後も全学共通科目を受講する者として切に改善を求めます。

●講義の名前に惹かれて、ある程度その内容も調べて履修したにも関わらず、どう考えても学生が関心を抱けるような内容でなかったり、教授本位の講義が進められることが時々ありました。それは自分の教養の欠如や、教養科目に対する不勉強が悪いのかどうかということについて悩んだことがありました。今となっては、自分の関心や興味が追いつくような授業を選ばなかったことも一つの原因だったと反省していますが、教員自身の研究がすごいものだと押し付ける姿勢があり、例えば学生の予定も考えず、自分の展覧会に来させ、来ない者には単位を与えないということもありました。やはりそういう面で講義内容の見直しを少し検討してほしいと思いました。

○自由に授業を選んでよかった。自分が選んだ授業だからこそ、最後まで頑張ろうと思えた。様々な分野の授業を受けられて面白かった。ある授業で聞いた話が別の授業の話あるいは自分の知識や経験とつながって、感動することがあった。

- A群が単位をとりにくく苦戦した。
- 正直僕は、この一年間で全学共通科目を履修する意味を見いだせなかった。というのも、全学共通科目で学ぶ内容は抽象的なものが多く興味を持ちにくいし、将来的に生かされるとも思えないからである。しかし、卒業するためにはある程度全学共通科目の単位が必要である。そこで、僕はある程度コマは埋めておき、その中から本当に自分に必要だと思うものだけを徹底的にやることにした。結果、その科目の授業を受けたりその科目の勉強をするのは楽しかったし、ためになったと思う。
- 全学共通科目のノルマは一回生の間に達成できたので良かった。A・B群ともに安定して授業に出ることができ、授業に関しては集中して受けれたので満足している。特に自分が専門にしようと思っていた科目で満足な結果が得られ、しっかり学習できたことは良かった。手ごたえを感じている。
- 受けた講義については、その分野の見聞が少し広まったという気持ちを持ってよかったと思う。当然のことであるが、受けていない講義の分野については何も触れられなかった気もする。だから、自分の興味がとる講義を左右するので、自分の興味はやはり重要なんだなと感じた。
- 病気で苦しみました。授業に出たくても出られず悲しい思いをしました。もう少し配慮していただきたかったです。
- 授業の形式が悪い先生が多すぎる。教える内容にふさわしい形式をとらず、一方的な主張や信念で授業の形式を選択する先生もいた。たとえば歴史の話を、口頭とメモ書き程度の板書で進めていく先生など。プリントも何の史料だかわからない、題名もない、といったものが多かった。全体的に、分かりづらい授業を展開して、生徒の努力を求めるばかりの先生が多かった気がする。もっと最低限当たり前の教え方、プリントの作り方を学んだほうがいいし、日々、試行錯誤したほうがよい。
- 新鮮さを失ってからが勝負です、そしてその勝負に負けました。
- A群・B群問わず教科の選択肢が非常に多いことがとてもよかった。
- 授業によって差が大きすぎると思います。熱心に指導してくださる教員の方の授業は難しくても聞く価値がありました。しかし、自己満足の講義を行う方の授業は、あまり興味を持ってませんでした。  
不満な講義に挙げた※※先生ですが、自分の出版物を買えば単位認定という意味の分からない単位認定体制をとっていました。もちろんそのような講義には行きたくないですし、講義自体も英語を教えてもらっている感じはありませんでした。  
そのような講義がクラス指定だったので残念です。2回生以降、きちんとした講義を選んで、落とされた英語力を取り戻すべく、精進していきたいです。
- 勉強の素材提供として、全学共通科目はよかったと思う。
- 興味のある事柄のより専門的な議論であったり、新しく興味をそそられる講義であったり、全学共通という名に違わぬ学びが得られたと思います。



- 教養を身に着けるといって非常にためになりました。
- 自分の専門ではない授業も受けてみたが、とても面白かった。
- どうしても取りたい授業に抽選で外れてしまったのが不満でした。

また、授業中に私語をする人がいたり、途中退席をする生徒がいたのが京都大学としては、あるまじき姿なのではないかと感じました。
- 私は文系なのですが、全学共通科目では健康科学や体力医科学、地球科学入門など、理系の科目も積極的に受講しました。それらの科目は先行知識などあまり必要なく、わかりやすい説明のおかげで「教養」としての知識が学べました。特に健康科学は自分の一日の野菜摂取量を書き出して野菜不足を実感したり、生活に基づいた授業だったため、身近に感じることができ学んだことを実践することが出来ました。
- 研究テーマには様々なものがあり、本当に自分が興味のあることを研究できるんだなと思った。
- レポートやディベートなどで自分の意見を相手に伝えられるように表現することが難しく感じましたが、いろいろな人々の様々な考えに触れ、一年前よりも視野が広がったと思います。
- 文系理系問わず様々なことを学べ、良かった。
- そこそこ楽しかったです。
- 知らない分野を開拓しようと思って取ってみた授業が、あまり自分に合わないということもあったので、やっぱり、自分の興味に従って授業を取ると良いと思った。
- 高校までの、ルールに従いさえすればよかった形態から、急に大海に放り出された心持のまま怒涛のように過ぎた感がある。学ぶも学ばざるも己次第、戸惑うことが多かったが自立への洗礼であろうと心得た。大学に身を置く先生自ら教壇に立ち、自身の研究研鑽に多忙な中、教授して頂いた知識を有効に運用したいと思う。しかし受ける学生の側に不満を感じる、楽勝科目を論い授業に遅刻し講義を聴かない、「己次第」に邁進している方が目立ったのが、たとえ自由の校風またおせっかいだと解っていても気になった。初めの1年ということもあり、大学はしんから個人学習のため、勉強の仕方が解らなくても気軽に相談を掛けられる相手がおらず全く暗中模索状態だった。大学では何を学ぶものなのか、読書に励めばいいのか、何を読めばいいのか全く暗闇だった。
- レポートという評価方法は大学に入って初めてのことで、4000字以上のものを仕上げるためにそれまで読んだこともなかった本や資料に出会うことができた。この課題を通して知識、興味の範囲を広げられたことがうれしい。
- 私はもともと幅広い教養を身に付けたいと思っていたので、全学共通科目は楽しみだった。しかし、専門科目を取らなかったせいもあってか、自分が何を学んでいるのかわからず、むなしさのようなものを感じる時があった。たしかに教養は重要だが、ある程度自分の専門が確立してからでないと教養の意味がないのではないかと感じた。

一方で、やはり専門にとらわれない幅広い教養は必要だと思うので、これからも全学共通科目を発展させてほしいと思う。

- 文学部も一回から専門を取らせるべき。退屈で脳が退化してしまう。
- 様々な分野に触れて、思いもよらなかった分野に興味を覚えることができた。
- 大学ではいろんな分野のピンポイントな講義があるのだと思った。
- 主体的にがんばろうと決意しました。
- 自分の興味のある分野の科目しか取らなかったのも、もっと多岐に渡る範囲の科目を履修すべきだったと少し後悔しています。2回生になり、専門の学部科目が増えたことでそれを実感しました。  
しかし履修していた授業はどれも面白く、ためになるものばかりでした。私が毎回予習や復習をちゃんとしていればもっと充実した時間が過ごせただろうに…と残念だったこともありますが、私は全学共通科目には満足しています。
- 自分の興味があることはもちろん、今まで全く知らなかったこと、京都大学に入る前には興味も抱けなかったことを色々学ぶことができて、とても充実した1年だったと思います。特に文系の私にとって、理系の内容をたくさん学ぶことができたのはとても楽しかったです。高校までは、授業の内容を聞いて暗記するだけの受け身の学習でしたが、大学の講義では教授に質問したり、教授のお勧めして下さった本を読んだり自分からすすんで学んでいこうという姿勢が少しは身に付いたと思います。  
講義は高度な内容も出てきましたが、自分の知的好奇心を満たしてくれる授業が多く、色々な分野のことを学べて勉強に対する意欲も高まりました。高校までに習ったことでも違う方面から考えると全然違ったものが見えてきて、それがとても面白かったです。
- 授業を聞いているだけでは何も身につかないことが分かった。
- 出来ればもっと実用的な教養を身につけたかったです。
- 全学共通科目を受講することで、将来的に専門分野に進んだ場合に触れなくなるであろう事象にも見識を広めることができたと考えている。
- gogakuyabai
- 全学共通科目では、文系・理系問わず様々な分野の科目を勉強する事が出来て、幅広い教養を身に付け、これから専攻する分野も大体絞れたように思います。ほとんどの科目が前提知識なしに受ける事が出来たのが、最も良い点だと思いました。
- ここに来られて本当によかった。いろんな人との関わりを大切にしていきたい。
- 出席した授業は総じて内容が興味深いものであり、満足のいくものであった。もっと能動的に知識を求めるべきだったと思われる。
- まず、あらゆる分野の講義を受講できたため、自分が本当に興味のある分野、逆に興味があると思っていたけれど実はそうでもない分野などをはっきり感じる事ができてよかった。ただ、勉強が厳しい授業を選択しなかったため、1年間ほとんど勉強しなかった。
- 入学当初は幅広い教養を身につけようと思っていたが、1年が終わってみると、自分が興味のあることに偏ってしまった気がする。だが、興味のある分野についての授業はやはりとても面白かったし、よかったと思う。

- 取り敢えず、フランス語8時間コースで※※先生の代理として※※を招いていることに納得  
いかない。曲がりなりにもフランス語を勉強したいと真面目に考えている学生のやる気を著  
しく削ぐ、そんな先生だった。代理を用意するにしても、もっとましな教員を、集中コース  
でなくても、まして集中コースなら尚更、充てるべきではないか。一年間受けてきた中で、  
フラ8のメンバーと常に先生を変えてほしいと話していた。これから代理などを検討する際  
には、もっと学生のことを考えてほしい。酷かった。授業にあれほど出たくないと思える先  
生は、短い人生ではあるけれど初めてだった。※※先生には感謝しています。  
全学共通科目は、まあ楽しかったです。
- 様々な分野の授業を受けることができ、2回生からの系選択の際には非常に参考になりました。  
しかし、抽選に落ちたり、語学の授業と重なったりして、取りたかったのに取れない授  
業もありました。また、後期になると授業に出席しない人の数が目立ちます。もっと出席を  
取るなどしてほしいと思いました。
- 興味のわからない分野の授業はやはり面白いとは思えなかった。  
シラバスに教科書の指定があり購入したにも関わらず、実際ほとんど使わないものもあり、  
もったいなかった。
- 私は全学共通科目を2回生からの専属決定の参考にしようと思っていましたが、結局参考に  
せずに決めました。もうちょっと、なんというか、1回生の手がかりになるような講義を増  
やしてくれたらうれしいなあと思います。ただおもしろいから聞くというんじゃなくて、  
教授の研究をちょっとのぞき見する機会がほしいのです。
- 熱意のある先生の授業はすごく面白かったです。若い先生に多かった気がします。でも割と  
年配の教授が、あまり生徒に気を遣わず好きなことを喋っているような授業も個人的には好  
きでした。ただ、秋頃にいきなり系を決めろと言われて戸惑ったので、専門科目につながる  
ような授業もあった方がいいと思います。
- 科目数が多く選択の幅が広がったため、興味のある科目ばかりを履修していた。だからどの  
授業も楽しみながら取り組めた。一方で、興味のある分野ばかりに偏った授業のとり方をし  
てしまったことが反省点。

### 7. 3 教育学部

- 今の学習がこれまでの学習と、これからの研究とつながっているという実感が乏しかった。  
高校までの知識は活かせず、専門科目への基礎になっているかも確かめられないので。
- 自分の興味のある授業をきちんと選べたときは、とてもおもしろかった。これからも、そう  
いった授業をどんどんとっていきたい。
- 授業の途中退出を一部制限してほしい。やる気がそがれる。
- 様々な研究分野があり、その入り口を覗けた気がした。

○専門性が薄かった。一般教養としての授業としてなら満足です。

●A群の歴史分野はかなり専門的で難しかった。

B群は文系でもわかるように工夫して説明されるものが多く、理解しやすかった。

○全学共通科目の受講を通じて、高校の授業では絶対に学ぶことのできなかった幅広い分野に触れることができてよかった。ただ、教授の授業への取り組み方の違いには驚いた。熱心な教授は本当に中身の濃い講義を行ってくれる一方で、非常にやる気のないような講義もあり、同じ一般教養の授業でも、そこから得られるものに、高校の授業よりはるかに差異があった。

●全学共通科目を履修するうちに、それまでの偏向的な考え方から多角的に考えることができるようになったと感じた。

○勉強とバイトとサークルの両立に悩みました。

○今まで全く興味のなかった霊長類に興味を持つようになった。前期の「霊長類学のすすめ」後期の「霊長類の社会・生態と保全」どちらも受講した。研究内容の面白さもさることながら、霊長類学を教えてください先生方はどの方も講義の準備を十分にされ、わかりやすく講義して下さるから、私の興味をこんなにも引くのだろうと思う。今では霊長類の研究が将来の選択肢の1つになっている。

●とりあえず講義にでることが大事だと思った。出なかったところでどうせ寝るだけなので、大学に来て友達に会うためにも、講義には出とくべきだと思った。

○楽勝科目などということを考えずに授業をとって、大変だったことも多かったですが、レポートを自分で調べてしっかり書いたり、英語の力をのばしたり (KUINEP)、自分の興味があったことについてより深く考えることができたりしました。

●シラバスを読む限りでは期待できそうなものでも、実際に授業を受けてみると、淡々と授業が進むだけで、まったく面白みのない授業も多々あったので、その辺を改善、向上してほしい。やはり、全学共通科目では、自分の専門以外の幅広い知識を身につけることのできるよい機会だと思うので、あらゆる学生が興味を持てるような授業を心掛けてほしい。逆に、とても面白く興味深い授業もたくさんあったので、そのような授業をもっと増やしてほしい。

○勉強への意欲に自分の興味のあることとないことで大きく差が見られた。もっと興味の幅を広げたかった。

●出席の有無が自由な講義であっても、出席し続けるモチベーションが続くような授業も多く、とても楽しかった。履修登録に制限が無いのは、素晴らしい制度だと感じた。

○付け焼刃の勉強でなんとかかなる教科が多くてびっくり…でもすべて友達の協力のおかげです。

●特になし。

●あまり身に付かなかったかなという印象です。

## 7. 4 法学部

●学部においては、まったく必要ないものもあったが、あくまでも一般常識の拡大としてみると楽しいものだった。いくつかの授業では予備知識が必要なものもあったがよい経験にはなった。全学共通科目の単位はもうそろっているがこれからも余裕がある限り受講していこうと思う。

●京大って実はたいした教育機関じゃないんじゃないか？

●シラバスなどによる授業内容の紹介・説明だけではその授業が実際にどんなものなのかをイメージすることが難しく、授業選択の基となりにくい。

授業選択期間として様々な授業に出席する機会もなくはないが、それでも十分な期間があるとは言えないと感じる。授業がどのような内容なのかどのように進行するのかが具体的にわかる方法があればよいと思う。

●サンデル教授のような講義を受けてみたいと思う。

○思っていたよりも内容が薄い授業が多く、出席者がどんどん減っていくのも納得出来てしまうものも多くあって残念だった。せつかく授業をするのだから、教員にもある程度熱意を持ってほしいと思った。

●週1回の授業ではなかなか教養は身に付かないなと感じました。ただ、自分の興味・関心に沿って自由に科目を選べたので、1年を通じて楽しく授業に出席できました。

●自由闊達な議論を促し、その議論の場を提供し、学生の浅はかな知識・思考能力を駆使した議論に対し、その問題点を指摘したり、さらに発展的な内容にまで踏み込むような、実践的・魅力的な授業形式にしてほしい。そのように、他人の考えに直にふれることすることで、物事を一面的ではなく、多面的に考える能力を涵養し、日常・社会に役立つ人材の育成、人間的成長につながるようにしてほしい。

惰性で授業をするのではなく、形式的に授業をするのではなく、黒板とにらめっこするのではなく、人と向き合い、人の考えにふれあい、コミュニケーションの上に成り立つ教育を期待する。

点数をとるため、単位をとるための勉強に学生のベクトルが向くことを恐れ、回避し、その勉強そのものを理解しようと苦心することを望み、推奨し、その機会を与え、悲しみや絶望、鬱症状、社会への不満や不安の蔓延する世の中を変える活力となるような革新的・画期的講義、つまり大学教育のイノベーションを巻き起こす先駆者に京都大学がなることによって、社会の負の空気、波を破壊しましょう。

国家権力やしがらみに屈しない、日本が誇る、世界が誇る学校を目指すことで、経済波及効果も生み出せます。

現状維持は成長維持やレベル維持ではなく、「低下」です。

世常無常、顧客のニーズにこたえ、勉強や生活に意義を見出させる活力となってください。

誠に勝手ながら以上のことを述べましたがこの要望が実現することを願ってやみません。

どうぞよろしくお願いします。

- 僕は法学部に所属しているが、全学共通科目では決して法律や政治に関する科目にとどまることはなく、自分の興味の赴くままに科目を選択することを心掛けた。その結果として、前期では高校時に履修しなかった地理や生物に関する講義を積極的に履修した。後期では、主としてB群の、文系でも理解しようとシラバスに記載されている、化学を扱った講義などを履修した。1年を通して、自分の科目選択は良かったと考えている。
- 全学共通科目は、専門分野を本格的に勉強する前に、幅広い教養を身につけることが目的とされていると、認識しています。確かに、全学共通科目を履修することで、私自身、幅広い学問分野に触れることができたと感じています。しかし、全学共通科目で私が最も得られたと感じているものは、それだけではありません。それは、専門科目の導入となるような、基礎知識が得られたことです。法学部の私にとって、「国際法入門」や「政治学基礎論A」が、まさにそんな基礎知識をもたらしてくれる授業でした。これらの授業で得た知識は、将来自分がどのような専門科目をとり、どのように勉強を進めていくかを考える上で、とても有意義なものでした。  
全学共通科目というと、幅広い教養を身につけるという本来の目的のもと、あえて専門科目とは違う分野の学問分野にも手を伸ばすべき、と考えられがちです。しかし、専門科目に準ずるような科目をとっても、そこにはまた別の収穫がある、と私は思います。
- なし。
- 自分の知らないことがこんなにもあったのかと思い、勉強が楽しかった。時間があれば、もっといろいろな講義を受けたいと思った。
- 全学共通科目をまじめに受けていない人が多すぎる。単位が降ってくる。  
ただし、自分から進んで勉強を行おうと思う人にはそれをするだけの時間が与えられているとも思う。
- 好きな分野に偏ったとり方だったかもしれませんが、その分積極的に取り組めたし、講義ではいろいろと学ぶことができました。
- 立ち見が出るような授業は教室変更を早めにしてほしい。
- 自分が興味を持ってないことでも、単位のために受けなければならなかったのが辛かった。
- 学生、教員ともに専門科目に比べて、全学共通科目に対する意識が低い。全員とは言わないが、明らかに適当な授業をする教員もいるし、授業にほとんど出席しないで単位をもらう学生もたくさんいる。今のままの全学共通科目ならば、むしろない方がましと思う。
- 興味のある科目が抽選で落ちたのが悲しかった。
- 知識の枠組みを拡大できたと思う。興味のある内容だけでなく、実用的な内容や苦手意識を持っていた分野の授業も受講して、多くの先生の話から多様な考えを知ることで精神的に成長出来たと思う。
- さまざまな分野の研究に触れて知識を習得していく中で、これまで狭かった自らの将来に対する視野が広まった。そして、社会に対して自分がどんな貢献ができるのかということをやより一層考えるようになった。

○授業に慣れるにしたがってサボる人も多中、自分は絶対であるという信念のもと、授業には必ず出席しました。興味を持って登録したものの難しくて大変な授業もありましたが、最後にちゃんと単位をもらえると、達成感がありました。

いろいろな分野を受講しようと思っていたのに、結局、A群は好きな歴史ばかり取ってしまい、もったいなかったと思いました。

●興味のある授業はあったが、楽しめなかった。

●やはり自分の興味に応じた科目をとることが必要。単位のためなど時間が無駄。

○授業中うるさいのに教員が注意しないのは嫌でした。

2回生のスペイン語の授業にも、※※先生の授業を入れてほしいです。

○専門科目が本格化する前に、学部では扱うことのない内容の講義を受けることができ、また専門科目の基礎となる知識を得ることもできたため、非常に有意義であったと思う。

●Liberal Arts に専門的知見を要請するのは個人的に先の予定する本旨に相反する恐れがあると考えるので、知識人たる学生を養成するような授業に今後していただければ、後輩のためになるのではと思います。

●楽な科目をもっと増やしてほしい。

●自分の学部以外の知識を得られることは、たとえ興味のないことであっても、必ずどこかで役に立つことがあると思うので、様々な知識に触れられることができよかったです。

○あらゆる分野の学問に触れることができ、興味の幅が広がった。

特に興味の持てた科目に関しては、学ぶことに楽しさを見出せた。

ただ、成績評価に関して、生徒の授業に対する頑張り重視し、積極的に授業に参加している生徒の評価を高くするとする先生がいる一方で、課題レポートを読むのは実はめんどくさい、適当に数枚選んで「優」をつけている、などと公言する先生もいたため、そのような成績評価が実際になされているのか疑問に思ったし、もしそうであれば問題であると思った。

●楽しかった。

○すごく楽しい授業があった一方で、単位取得に貪欲になりすぎて、興味のない授業にまで積極的に出席することになってしまった。もう少し、自分のやりたいことに的を絞ってもよかったと思う。

○予備知識なしでも受講可とシラバスにあったので受講したものが、実際受講してみると予備知識なしでは到底理解しがたいものであったことに不満をいだいた。

グループワークやプレゼンが自分の知識を深めるのに役立ち、また同じグループの人と交流を持てて非常に楽しかった。

●法学部生でありながら、法学以外の社会科学部分野のみならず、自然科学分野を幅広く勉強できるとは、去年の春は思ってもみませんでした。特に、ポケゼミの魚類心理学入門で、舞鶴に実習に行った時の思い出と経験は一生の宝になりました。実習とは縁のない法学部生にとって、とても貴重な体験となりました。全学共通科目で得た教養を今後の学習、ひいては人生の糧としたいと思います。

- リレー講義の場合は教員同士の連絡をきちんとするべきだと思います。  
カウンセラーの講義は本当に良かったです。
- つまらなかった。
- 多くの種類の一般教養があり、すべて自分で履修したい科目を決めることができ、とてもよかったです。
- 自分の専門外の分野の話を聞けて、その方面への興味、おもしろさを新たに発見できたのがよかった。
- 先生のやる気のなさが伝わってくる科目や全く面白くないことばかり話すものなどもたくさんあり、これから改善して行ってほしい。  
また科目ごとに単位を取れる難しさが極端に違っているものなどもあり、そういった面にも踏み込んで行ってほしい。
- 生徒側の評価はあくまでも参考程度に捉えるべきで、先生方は自身の信念に従って授業されるべきだと思う。
- いろんな分野に関する教養が身につけられたので、とてもよかったです。
- 取りたい授業がかぶってしまって残念なこともあるぐらい、充実していた。  
特に、フランス語の8時間コースは大変良かった。
- 高校まででは習わなかったことをたくさん学べて視野が少し広がったように感じた。
- 京都大学は自由な学風と言われていますが、入学してみて本当にその通りだと思いました。  
おかげで、一般教養科目で色んな教養を得ることができました。この学校に入学して、本当に良かったです。
- 専門以外の分野にもたくさん触れることができ、とても楽しかったと思う。  
特に物理は高校時代全くやってこなかったもので、できるかどうか不安だったが、先生の話が面白く、楽しく授業を受けることができた。最後に出されたレポート課題は、どれも物理に関係してなさそうに見えるのに、実は物理に関係していると先生がおっしゃっていたので不思議な感じがした。  
労使関係論では今まで興味がほとんどなかった労働法に対する興味を引き出してくれたので、今後の勉強の選択肢がひとつ増えたように思う。  
全学共通科目では、他のたくさんの学部の人と授業を受けることができるし、一つの視点にとらわれず色んな視点で様々なことを学べるのがよいと思った。
- 一言で教養科目といっても各科目とも10数回の授業でその本質が理解・吸収できる程度の内容ではなく学問の深さ等を感じた。
- 全学共通科目の授業は自分の視野を広げてくれました。二回生からも時間が許す限り講義をとってみたいと思います。
- 文理ともに自分の興味のあるものを幅広く受講しました。受講したほとんどの講義は興味深く、新鮮で満足出来ました。また、そうでない講義も自ら主体的に関心を持つとすると、学ぼうとする意識があれば満足できたのだろうと思います。



- 成績のつけ方が、日ごろの努力を反映できていない。
- 講義内容が面白く、受講していて楽しかった。また、知識の幅が広がった。
- 自分を律することができず、易きに流れてしまったのが残念である。
- 授業に出て、テスト前に少し勉強すると、全学共通科目は単位が取れることがわかり安心しました。
- 新入生は希望に燃えていることと思いますが、いずれその熱は冷めます。冷静に考えて自分のキャパを自覚して下さい。
- 専門以外での幅広い知識の重要性を認識しました。
- 人が熱心に伝えようとするなら、それは相手に届くということ。相手を変え、成長させるのだということ。この全学共通科目の授業を通じてたくさんの先生と出会えた。感謝しているのは、※※先生、※※先生、※※先生、※※先生、※※先生、※※先生・・・皆さんが熱心に語りかけてくださったので、僕は本当にたくさんのものを得ることが出来ました。授業、というよりもむしろ学問を通じた会話を楽しんでいられたと思います。
- 簡単だった。
- 科目の選択肢が多く、専門外でもさまざまな面白い科目を学べました。自分の知識や興味が広がって、よかったです。その反面、科目がありすぎて選ぶのが大変だったり、興味深い授業とそうでない授業の差が大きかったりしたので、そこを改善してほしいです。
- 特になし。
- さまざまな教養があること。

## 7. 5 経済学部

- GPAを出さないというのは大学の方針として理解はできるが、生徒側が勝手にGPA近似を求めるので、成績評価方法が、「優・良・可・不可」なのか、「合格・不合格」なのか、シラバスに書いてほしい。もちろん後者のような講義は取らない。
- 単位をとることを重視してしまい、本来の教養というものがなにかを見失ってしまった気がした。  
興味深い授業というのは、案外自分が専門とする分野と全く異なるものが多いと感じた。  
やはり、有名な教授の授業はおもしろく、テスト勉強やレポート課題をこなす上で、他の科目よりも内容を身に着けることができたと思う。
- 教養というよりレポートの書き方を覚えた1年間の受講だった。
- わかりやすい教科書を指定してほしい。
- もう少し科目を増やしてほしいと感じました。
- 一般教養を1年間受けることで多くのことに興味を持てるようになりました。前期に受けた内容で分からなかった部分も後期や春休みのときに違った形で理解できるようになったりしてもう一回履修したいなあと思う科目もあったりします。

- いろいろなことが学べてとてもよかったです。
- 幅広い知見を身に着けるために、様々な授業が開かれていること自体はありがたいことです。専門科目と授業時間が重複してしまっても、それを補うだけ面白い科目がたくさんあります。ただ、単位を取ることを目的としたほかの学生のせいで、興味のある授業が抽選で取れないことがありました。その後、登録はしていませんが授業の朝聴講していて思ったのですが、どーせ彼らは授業にはでません。したがって、席は次第に空いてきます。それにもかかわらず登録できなかった学生への配慮はありません。つまり、抽選制度はやめてしまうべきです。少なくとも、2回生以上では、1回生の成績に基づいて、優先順位を決めるべきです。怠け者で勉強する気がない学生を優先する意味が分かりません。
- 全学共通科目は専門科目の勉強と関係がないと思っていました。しかし、後での専門科目の勉強に役に立ちました。
- 経済学部ですが、生物の授業など、理系の知識も得られるところが総合大学の長所だと思う。技術を実際に応用するには経済の問題の重要になってくる。社会の上層に立とうとするものは、幅広い教養を身につけることが大事だと思う。その意味でも、特に理系の科目は非常に役に立った。
- 前期・後期を通して一番楽しめた授業は、少人数体制で行う授業だ。特にプレゼンを要するものが楽しかった。なぜなら、プレゼンをグループでするために、生徒間での交流が盛んになるからだ。また、プレゼンを主にしない体系の授業でも、少人数体制で議論を行う形のもの楽しかった。これらの形の授業を通して、これまで自身の中に蓄積しているだけの知識をアウトプットすることができたと感じている。アウトプットすることで、よりいっそうそのトピックに対する知識と興味が深まった気がする。不満を言えば、大人数体制の講義に対してである。履修人数が多いため仕方ないことは承知しているのだが、授業内容で理解できないところがあり、質問しに行ったときの対応がとても悪く感じた。勿論教員に頼るだけでなく、自己解決しなければいけないことも承知している。しかし、トピックの根本部分である場所が理解できない場合は教員を頼るべきだと私は考えている。
- 全学共通科目は、セメスター制度の中では議論を体系化して学生に伝えきれるほどの時間がないわけであるから、それぞれの教員の研究分野を特化して、何が面白くて、何が世の中の役に立って、何が苦勞で、何が成果で、何が失敗なのか、なぜ今の時代にその研究が必要なのか、なんのためにやっているのか、その研究成果を応用できたら何が実現できるのか、など、それぞれの研究者による公演として授業を捉え、その魅力をわれわれに伝え、学生が自分の学部の分野、ゼミや研究室のに入ったあとにふと思い出してコラボレーションを考えたりする芽を植えつけるのが目的であってほしい。全学共通で、内容の全体像を基礎的に伝え、レポートを課すやり方は生産的でない。そうであれば、学生が単位をかき集めるだけに存在しているといわれても仕方がない部分も大いにあると考えている。

- もっと面白い内容にしてほしい。
- 自分は、まだ何も知らないことに気づいた。同時に、色々な物の見方を垣間見ることが出来た。また、勉強する意味とか、友達の大切さがわからなくなったときもあって、苦しかったけど、今は少しだけ、納得出来た気がする。でもまだまだ知らないことだらけで、この1年で成長できたかと考えると、あまり自信がない。でもそういう自信のないことも、次を頑張るための支えになるんだろうとも思った。
- 入学前から期待していたポケゼミに入れなかった（第一～第三志望すべて落ちた）ことには大いに失望させられた。
- 自分が興味を持つ科目をとるということもある程度あるけど、自分の興味よりは単位のため、通称楽勝科目をとる場合が多いと思われる。これからは単位を求めて科目を選択するより、自分の興味や知識のため、純粋に科目を選べるようになってほしいと思う。
- 自分の専攻以外の分野について、一流の教員のもとで勉強ができることに総合大学としての京大の強みを感じた。個人的には、学部生が幅広い教養を身につけることは、大学教育において達成されるべき重要な目的の一つだと考えているので、これからも力を入れて取り組むべきだと思う。その点で、全回生向けのポケットゼミのような科目があってもよいのではないか、と思った。
- 一般教養課程における授業は結局授業の表題と関連性がない授業を展開される教授も多く、不親切な面があるなと感じた。
- 自分の所属する学部で扱う範囲外の分野が学べることは、幅広い知識を得るためには有意義であると思う。
- もっと勉強したい。世界へ飛び出すための自信をつけたいので、留学関係のプログラムをもっと揃えてほしい。
- 興味深い授業もあり、自分のためになったこともたくさんあった。一方で休講が多かったり、教授から熱意が感じられない授業もあり残念に感じたこともあった。
- 先生が楽しければ、授業は楽しい。  
自分の興味をはじめから決めてかからないで、先生で決めるようにしています。
- 特に農業や自然に関する授業では、自分の専門外のことではありましたが幅広い知識を得ることができて興味深かったです。色々な先生がリレー形式で行う授業がよかったです。
- 経済学部教務の対応が悪すぎます。はたして彼らが十分に役割を果たしているのか疑問です。
- 自分の興味にとらわれず、できるだけ幅広くとって見たが、正直あまり何かを得られたという実感はない。その場限りの感心で終わっていた気がする。  
ただ、科目選択の裁量がかなり自分に与えられており、そのために、自分が何を求め、そのためにどういった勉強、どういった科目を学ばなければならないのかということを中心に考えざるをえず、それはなかなか悩みの種であったが、同時にとても良いことだったと思う。  
自分が選んだものだから結果がどうであれ納得することができ、失望せずに前をむいていられたし、そして何より大学に対して一番に求めていた自由がそこにあり、すごく楽しい。

●自分が今までにあまり考えたことのない分野について、専門としている人から話を聞き、それについて自分なりに考えることは貴重な経験だなと感じた。

○様々な分野の入門を学ぶことができてよかったです。

●全学共通科目を受講することで、より専門科目を早くやりたいと思った。

●一般教養の科目は、単位数を稼ぐことばかりに目が行って、結局のところ身に付くものが少なかったように思う。これは、広く浅く、な授業内容・履修内容が起因するところだと思われる。

●パンキョーは教授と学生相互の自己満足に過ぎない（語学は除く）。

○思っていたほど大学の授業はおもしろくないことがわかった。しかも高校の先生よりわかりにくい(特に数学)。

●まだまだ自分に限界は感じない。

●理系の授業をとれておもしろかった。

●勉強の目的が知識や教養を得ることではなく、単位を取得することになっていた気がします。

●自分の大学生活の過ごし方に迷いや不安があり、結果として学業に対するモチベーションを失ってしまったので、後期はほとんど授業に出なかったし、前期も何をやったかあまり覚えていない。だから全学共通科目に対して有用な意見をあまり持っていないのが残念なところではあるが、ひとつ思うのは、ただノートを写すとか受動的になるのではなく、主体的に授業を聞くということが高校に比べて遥かに大事であるということである。自分の気持ちも少しずつ一つの方向にまとまり始めたので、今年は去年よりちゃんと授業が受けられそうである。

●自分は、周りの学生と比べると学習意欲は低いかもしれないが、知的好奇心は旺盛だと思っている。しかし、「これは興味ありそうだな」と思ってとりあえず受講してみたはよいものの、実際に授業を受けてみると、つまらないと思うものが多くあった。正直なところ、全学共通科目を受講して体系的な知識が身についたとは思えないが、自分が知的好奇心は旺盛でも非常に飽きっぽい性格なんだと実感して、今、一番興味のある経営学を学部科目で真摯に学んでいこうと思っている。

●高校などと違い、自分の興味のひかれる講義を受講できて、見聞を広げることができたのは非常に楽しかった。専攻と関係ない科目でも、聞いたり調べたり話し合ったりして、自分の知識が広がったと思えて良かった。

同時に、所謂「楽勝科目」に群がる同期生を見て若干の不快感もあった。クラス指定科目ではクラスの半数がいかに楽に単位を取るか、ばかりを考えているような人のようでクラスのつながりというものは意識しなかった。ただそんな中でも友人ができたので悪くなかったと思う。

最大の不満点は問3でも書いたが、あまりにもひどい教員を見たことだった。「教える」という点では仕方ないことだが高校の教員の方が何倍も上だと思った。もちろん尊敬できる教員も多数いたので、比較して不満が浮き彫りになったのだと思う。

●教授にもいろいろな方がいるな、と思った。

それはともかく、レポート課題の作成などを通して授業では網羅されなかった内容を理解することができたので、やはり課題というものにも評価方法以外の意義があるのだなと感じた。

○日常に還元されるような講義を増やしてほしい。

語学の講義に関しては、語学が向上するようなカリキュラムを組んでほしい。

○どの科目も専門性があって、高校の時のものとの差異を感じました。

●全学共通科目についていくつかの不備が見られるので、それについて述べる。

(1)外国語の履修登録システムにおける不備

(経済英語ではなく)英語ⅡA・ドイツ語ⅡAなどの外国語の履修登録だが、4月初旬の授業が始まる前の段階で履修科目を決定しなければならないことに強く不満を抱いている。

このシステムでは履修登録を終えてから初めて授業に出席することになるので、その教師の授業が自分にあっているのか全く判断できず、不利益極まりない。

第二外国語についても、経済英語や他の全学共通科目と同じ措置を施していただきたい。

(2)教師のマイク使用の徹底

教師には、授業中のマイクの使用を強制すべきと思う。

いくら音量があろうが、教師が声を張り上げて授業を進行するのは不快でしかない(そもそも声が小さいのにマイクを使わない言語道断な人間もいるが)。マイクを使ったほうが絶対に声が響きやすくなるのだから、有無をいわず使用を徹底すべきであろう。

○普通に楽しかった。

●わざわざ出たい!と思うほど関心のある授業じゃないと途中からいかなくなってしまう。まあ自分が悪いのですが…

○自分の知識がいかに浅く狭いものであるかを痛感した。

●一部の教員の教え方が適当である。例えば、私は文科系だが、B群の授業において、シラバスには予備知識の一切ない文科系の学生にも配慮する旨が記載されていたが、実際には授業のスピードが速く、かつ説明が不十分で、学生の理解度を確認せずに授業を継続していったことがあった。これでは学生側には結局何も残らず、高等教育機関の授業としてまったく意味をなさない。

さらに重要なことには、今回全学共通科目の改善を図るべくアンケートをとるのはいいが、それをどのようにして実際の授業に反映させていくのかを明確化し、そしてその効果はどのくらいあるのかを検証し、その結果を公表することが必要である。おそらく自分と同じような不満を抱いていた先輩方は多くいらっしまったと思うが、未だに私が全学共通科目に対して同様な印象を抱かざるを得ないのは(そしてこのような不満を抱いているのは私だけではないが)、その不満を未だ解消できていないという現実があるといえる。

## 7. 6 理学部

- 自分の将来の夢につながる勉強、自分の興味の幅を広げる勉強、専門への橋渡しとなる勉強など、様々な勉強ができました。楽しかったです。2回生以降も頑張ります。
- 理系にとってはA群の科目で魅力的に感じる授業が少なかった。
- ポケゼミは、非常に楽しかったし、将来の進路を考える上でも非常に役に立ちました。  
高校までの勉強とは全く違う分野の勉強も出来てそれはそれで非常に良い経験になったと思います。
- 全学共通科目には多様な科目があり、それぞれ興味深い。また、学部の専門科目につながる基礎的な科目が一括して全学共通科目で行われるという制度について、これによって専門科目を履修するにあたってどのような基礎科目が必要かなどがわかりやすくなっている。
- 理学部の先の進路を決めるうえで、興味のある分野を探したいと思っていたが、内容がすでに入り組みすぎて難しく、興味を持つという段階のものではなかった。  
自分で自学自習をあまりしていなかった僕も悪いが、もう少し何もわからない人が興味を持てるような内容にしてほしかったと思う。
- 自由だけどそれゆえに逆に今自分が取るべき科目がよくわからず不安になる。  
あと単位さえ取ればいいという人が周りにたくさんいるせいで自分も学習意欲が徐々に下がってきている。
- とくにA群の科目には今までにない世界観や価値観に目を向けさせられました。自分の生活する世界が非常に特殊なものであるという感想を持ちました。さまざまな科目を履修することができることはありがたいです。
- 勉強をしよう！という意志を持った人を探すのに、非常に苦勞する環境だなあとはいいます。  
私自身が、しっかり積極的に動いていないのが一番の問題ですが、やる気がなくなったときに、悪い方向に流れて行く人が非常に多く、それが全体的な風潮となっているのは、大学受験を必死で(?)乗り越えた京大生なのに…！大きな損失だと思います。  
2回生以上が、希望に満ちた新入生に対し、冷めた視線であったり、期待を裏切るような話をしてしまう状況が多々あるのがすごく残念です。  
しかし、中にはやる気のある学生も居て、自主ゼミなども、機能しているにはしています。  
やる気のある人がもっと集える環境だといいな、と思います。  
また、全共の科目は自分の興味にそぐわないと、早々に諦めて、無駄に大学生活をだらだら過ごす友人が割といますが、残念です…  
基本的には、求めれば、学べる環境だと思っているので、大学選択・学部選択自体は、全く間違っていなかったなと思っています。
- 特に理系科目(B群)なんかは、教科書を指定しているのだから教科書を説明するだけのよきな科目は特別意味を成さないと思った。授業に行っても自分で教科書を読んでいけばよいのであればわざわざ行く必要がないと思ひ後期から授業に行く回数が減った。
- 日本国憲法の開講数を増やしてほしい。

- 全学共通科目への注文なのですが.....
  - ・人数制限がある科目の予備登録締め切りが早すぎる。
  - ・履修登録の資料の配布が遅い。授業開始の数日前にやっと配布されたので、その後、履修登録に悩んで非常に苦労した（カウンセリングセンターを利用したほど）。
  - ・外国人教師の表記を統一してほしい。カタカナ表記と英語表記が混在しているので、シラバスで検索するとき、検索しづらい。
  - ・文系も理系も、いろいろなことを学べて、世界が広がったような気がします。
- 全学共通科目（一般教養科目）は自分の専門外なので知識を確認するテストではなくレポートなど思考力で評価してもらいたい。
- やりたいことが分からなくなった。
- 高校の勉強とのギャップが大きくあったが、先生の気遣いなどで多少埋めることができたと思う。
- 対話を根幹とした自学自習という言葉に期待しすぎたのかもしれない。
 

仕方がないことかもしれないが、あまり対話のない授業が多かった。できることなら教員や他の学生ともっと関わり合いたかった。ポケゼミや実験で多少の人とつながりを持つことはできたのでとりあえずは満足だ。ただ、「自学自習」というところを見落としていたのは否めない。二回生からはもっと積極的に勉強したい。

（と思うようになったのはある人との出会いのおかげだ。だから、全学共通科目ではもっと教員と学生がコミュニケーションが取れるようにすべきだという主張に変わりはない。）
- 授業に出るのが面倒だ。
- 一年間で多くのことが勉強できたと思う一方で、何を学ぶべきかを見通して学習しなければ、徒に時間が過ぎてしまう（しまった）と感じた。
 

「不満だった科目」を書かなかったのは、その原因が授業・教員によるのか、あるいは、予習復習不足によるのかがわからなかったから。
- やっぱり数学は理学部で！
- がんばります。
- 入学したころは、自分の専門に関係ないような一般教養の講義の内容まで理解しないと卒業に必要な単位をそろえられないのではないかと心配していたが、前期が終わるころにはそのような不安も消えていた。
- どの科目も非常に退屈な授業ばかりだった。
- 特になし。
- 自分で勉強したほうが早いということが良くわかった。
 

ハズレ教官ばかりのクラス指定科目から解放された解放感がすさまじい。僕は叫びたい。

I'm Freeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeee!!!!
- 一般教養科目は楽しいものが多い。
- 専門の方が圧倒的に面白い。

- 様々な分野の先生が、何を考えて研究しているのかを垣間見ることができたのは、良かったです。
- 勉強について、やろうやろうと頭の中で考えるのだが、行動に移せず、寝る前に今日も勉強できなかった（しなかった）と後悔していた。今年度こそがんばりたい。
- クラス指定と自分の興味のある科目とが同じ時間帯に入っていたのでクラス指定を優先したが、ちょっと後悔。
- 理系の人が文系の科目を取らないといけないのは納得いかない。
- 理学部の教員はあまり授業に熱意をもっていないように感じた。  
全体としては、あまり講義に出席していなかったが、さまざまな講義を体験できて興味を広げることができた。  
ただ、理学部にはあまり興味がなくなった。
- やっぱ授業出なきゃ損だなって思いました。
- バイトと学問の両立は大変だなあと思いました。履修コマ数にもよるのですが、僕は前期で23コマとってバイトもしていたので、とてもしんどかったです。後期はバイトやめて27コマ取りましたが、やはりしっかり励めました。まあこれはあまり質問に関係ないですが・・・  
一般教を受講して思ったことは、大学って、学びたいと思ったことがいろいろ学ぶことができているなあ、でしょうか。もちろんクラス指定科目などの制限で履修できなかったものもあり（しかも今年度不開講！）全部が全部かなうわけではありませんでしたが、自分なりに十分です。  
図書館などで、友達と勉強したり、それ以外の生活の話をしたり、まあなにはともあれ、結局は非常に充実した一年でした。
- 他学部と一緒に学べる場でありながら、他学部の考えや意見を聞いたり、こちらから意見を言ったりするなどの場があまり設けられていなかったように思える。
- 自分が今まで知らなかった分野、これからの勉強に直接的に関係のない分野を楽しく学べて良かった。
- 理系科目で自習の方法が当初わからなくて困惑した。試行錯誤して解決した。
- 学習意欲の低い学生ばかりで残念だ。
- 何事も真剣に取り組まなければ楽しさは味わえないということ。あれこれと手を出して勉強しても、表面的な知識の取得だけで終わってしまう。そういう意味では、必要単位数をもっと少なくしてもいいかもしれない。
- 自分の知らないことを少しでも知ることができた。一般教養科目では、自分の専門にしようとしていること以外の知識も手に入れることができたように思う。
- 興味がわきある分野を勉強するきっかけを作ってくれる。
- 友人の大切さを非常に強く感じました。
- 数学があまりにも難しい。成績評価を出席重視にしてほしい。



- 広い視野を持つことができたと思います。
- 面白そうな科目があっても、他の授業と被ってしまい、受講できないということがあった。  
特に一週間に一コマしか開講していない科目やクラス配当科目などは、もう少し柔軟にとれるよう工夫してほしい。
- 思った以上に様々なジャンルの科目があって楽しかった。
- 授業に頼りすぎることなく、自分で勉強することが大切だと感じた。
- わからないまま進んでいくことが多く、結局サークルなどの今までにない楽しいことに興味・関心が移って行ってしまったと思う。
- 勉強を強制されない環境の中、いかに勉強への意欲を持ち続けるのかが大切だと思った。
- 多くの先生が親切であり、私の疑問に耳を傾け、ヒントをくれた。意欲次第で大きな飛躍が望める可能性を感じた。  
好奇心旺盛な生徒が多いことや授業を選択できる自由さが理由であろうが、学部関係なく興味を同じくする朋友と出会い話す機会に恵まれていた。そのため、大きな刺激を受け楽しく見識を深められた。  
入試を簡単化しセンター試験を加味するだけでなく、さらに理数上位 30 名の制限枠をなくすとすると、(少なくとも理学部内の)このような朋友の相対量は減るに違いない。  
京大理学部への期待と真逆である。残念だ。
- 内容が専門的すぎてついていけない。授業を分かりやすくしてほしい。
- 周りの人間が単位、単位と五月蠅いが、勉強は本来そういうものではないと思う。  
そのような空気に毒されたせいか、入学後は勉強に意欲を持てなくなっている。  
単位のための勉強にならないようにしたい。
- がんばれなくてごめんなさい。
- 問6 などでも書きましたが、大教室で板書の字や図が小さい(または汚い)のは本当に辛い。  
歴史を扱う講義は、自分は今まで歴史を真面目に勉強してこなかったのも、非常にためになり、また面白かった。
- 何事も真面目にやることの重要性を感じました。
- 興味のある講義が同じ時間に重なっていたり、クラス指定科目とかぶっていたりして、取りたいのに取れないことがあった。
- 基本的に、授業が全く面白くない。  
主体的に取り組むのが学問であるはずなのに、出席や宿題で縛りつける意味が全く分からない。授業は単位を取るために強制的にやらされているものにしか思えない。  
そもそも単位制度そのものがいらぬ。そんなもので評価とかしてほしくない。  
高校時代の授業と何ら変わらない束縛的なもの。
- なんだかんだいって大事なのは自分のやる気と自主勉だと思う。
- 周りの人が皆、大変優秀で刺激となるとともに劣等感を強く感じます。
- やっぱ興味を持てないことには勉強意欲がわかかなかった。

- 多分に前衛的です。

全共科目は教授の趣味の披露である。外から見るとこいつらはこんな意味のないことやっているのかとしか思えない。内容はテストのためのものでしかないし、何よりそれを嫌々やられる先生方を見るよりは、ちゃんと学問をしてどちら側も真に楽しめることをするのが良い。所詮テストのための勉強なんて身に残らず、就職予備校に遊びに来ている学生の教養なんかには絶対ならない。自ら「知りたい」と思い勉強する時間にして、学会や研究室を開き熱意や興味がある前提のもと研究者に一对一で教えてもらうことのほうがどれほど有意義なことか。いったい世の中の教育システムなどとはざく者は場を用意すれば教養が付き学ぶ意欲は自然に湧いてくると思っているのか。結局タイトルと説明のみ人の興味を引くことを書いて誘惑する講義たちは専門研究や、同じことを自ら疑問に思っただけの何の足しにもならなかった。ゆとり教育を放置と解釈されるのは勝手だが、「自発的」疑問がどんとき湧き出てとまらなくなるのかを仮にも研究者である教育論者には考えていただきたい。

- とても数多くの講義が開講されていることは、あらゆる興味を持って入学する京大生のニーズに合っていてとても素晴らしいことだが、各々の講義の内容を知るためのシラバスが半ば形式化しており、中身の吟味を十分にできない書き方がされているように思えるので、そのところを改善してもらいたい。

- 京大は京大らしい授業が展開されてもいいとおもう。最近京大が東大のように感じているように感じる。せっかく就職を気にしなくてもいい人が多い京都大学において単位のためだけの表面上の知識などいらず、もっと深いものを伝える場であってほしい。

- 専門以外の科目に面白いものが多かった。

- あらゆる面において、教授等教師陣と我々学生との間の乖離を感じました。それは教師・学生のどちらがどうというのではなく、また意思の疎通が図られていないと感じることが多いということでもあります。教授は「教」を「授」けるものでありながら、研究者でもあるので、難しい面もあると思いますが、この辺りが改善されると良いと漠然と感じます。

- 全学共通科目の一番の特徴は「専門分野だけでなく幅広い分野の知識が得られる」ということであるが、この制度は必要なのか。この制度により優秀な知識人は生まれるが、専門家は生まれにくいということだ。それぞれの学問には固有の領域の広さがあるため、哲学や文学などの様々なアプローチが必要な学問には全学共通科目みみたいな制度は必要かもしれないが、数学や物理のような専門的知識が必要な学問を学ぶ上で幅広い知識とは本当に必要なのだろうか。すべての分野を平等・同一視している所に問題があると思う。

- 興味があって受講した講義も、あまり無いものの時間割の関係で受講した講義も、何かこれから先意味のあることになると思う。

- 数学や物理の授業を受けなくなってしまったのがショックである。

一回生の生物が簡単すぎる。

- 一般教養はいらんやろ。

- 予習が重要だと感じた。

- 正直、結構しんどかった。自分の努力が足りないのかもしれないが、特に専門基礎科目において、教員との距離や温度差が感じられた。
- 理学部では全学共通科目のB群は基本的に単位として認められませんが、私は単位として認められないことをわかっていてこれらを結構受講し、そしてかなりのことを学びました。専門&専門基礎以外は単位として認めないというスタンスも理解はできますが、まったく認めないというのは幅広く学べという理学部のスタンスにも矛盾すると思います。
- いろんな分野の講義があって、それぞれ興味深い内容だった。
- 授業の進め方によって、その講義の面白さが全然違った。
- B群の授業は概ね満足のものだった。
- 特になし。
- 面白い授業もあったが、坦々としてつまらない授業もあった。
- 1回生のときは履修登録がうまくできませんでした。それは私が京大の履修システムを十分に理解できなかったことも一因だと思います。他にも履修で苦労した人もいたかと思います。できれば、シンプルにまとめたものも同時に配布していただけると助かったと思います。
- 京都大学と言えば、授業に全く出席しないのが標準だと思っていたので、出席者の多さに驚いた。また、何もしなくても単位が取れるのが標準だと思っていたので、単位を落とすこともあるのに驚いた。自分の研究したいものにさえ打ち込んでいればよかった時代は終わったのだと思うと寂しく感じた。このような方針では、われわれの世代以降はおそらくノーベル賞などに値する優れた研究者はいなくなるのだろうとも感じた。
- B群の授業は週一でやるのがそもそも無理なので自学自習になるので出席数が激減します。
- 大学の勉強は思っていたより大変。
- モチベーションを維持することの困難さと、自分自身においてより工夫が必要であると感じました。
- 自分自身で勉強していくことの大切さを感じました。

## 7. 7 医学部

- 授業で学んだことを友人と議論できたのが楽しかった。
- かっこよすぎる。医学部にいながら他の学部の教授から授業受けられるなんて。
- 「がり勉」の評価を恐れる空気が一部に広がっているのは残念だ。
- 必要単位数を確保するために興味のない授業に出るのは苦痛だった。  
しかし、興味のある科目を自由に選択できたのは良かった。
- 学問の幅広さに驚きました。
- 学生に授業をするというよりは、黒板に授業をしているような先生が多く、わかりにくく、学習意欲もなくなった。
- 結構楽しめた。

- 大人数の学生が受ける授業は、興味の持てないものがほとんどだった。教員の多くは、授業を研究の二の次と考えているとしか思えなかった。学生が興味の持てる授業をするか、ドイツの大学のように、熱心に教えてもらいたい。

自由に勉強することができる人がそれほど多いとは思えない。もちろん、勉強意欲をもっていないことは学生の大きな問題であるが、ある程度の規則・強制がなければ、興味を持つに至ることもないのではないか、と思う。自分の勉強したいことが決まっている人とそうでない人を区別した「教育」をすることを大学には求めたいと思う。このままでは日本が心配である。これは甘えなのかもしれないが、生活が豊かになった現代においてやむを得ない状況なのではないか。

- 勉強は自分でするもの。

理系科目は板書してほしい。

授業は簡単などころから始めて、速い速度で進めばいい(そうすれば真面目にやれば予備知識が多くなっても多くを学べる)。

- 私は楽しく講義を聴くことができました。初めは、あまりにも出席をとらないために他の学生が授業をさぼることに対して違和感を感じていましたが、私も徐々に自分の本当に興味のあるもののみ出席するようになりました。それが本当によいことなのかは分かりませんが、少なくとも私はそのおかげで、興味のある分野の内容の理解や学業意外の活動に時間をかけることができよかったです。

- かなり多くの種類の講座が用意されていて、それだけでも十分だとは思う。

しかし、個人的には、例えば「twitter 学」といった、ちょっと変わっているが、現代を生きる上で必要と思われる内容があると面白いと思う。そういう科目なら楽しめるし、同時にためにもなると思うからだ。今後に期待。

- 所謂「楽勝科目」でもちゃんと講義を受ければ実りあるものであった。

数人でプレゼンテーションをする講義では他学部の人と交流しながら共に良いものを作ることが出来たのは総合大学だからこそ出来るものだと痛感した。

- 期待通りか、期待を上回るほどであった。

専門科目と、卒業要件を満たすための制限で、あまり満足に授業を取れなかったが、無限に取れるなら、もっと取って見たかった。

- 興味をそそられるような講義をもっと増やしてほしい。概論的なものより、少々専門的なものの方が面白そう。

- 一年間とても楽しかったです。語学の授業は特に先生が面白く、自然に勉強したくなりました。本当にいい先生に出会えたと思いました。また、上の欄には書ききれませんでしたが、生化学はとても面白かったです。高校の際には生物なんて面白くないと決めつけていた僕に新しいものを見せてくれました。

- 他の学部の学生からの隔たり。

- あらゆる分野の幅広い知識を身につけることの大切さを実感しました。

- 自分で登録したい科目を選ぶことが来たので一年間を通して積極的に参加し、勉強できたと思う。逆に周りの人が回数を重ねるごとに出席しなくなったり、すぐに帰ってしまうのを見たりして悲しく思った。
- 2回生から本格的に専門科目の講義が始まり、全学共通科目は履修がほとんどできなくなります。1回生の内にもっと自分の興味のある分野の科目を履修しておけば良かったなと思います。
- 当然のことなのですが、高校生の際は先生方が教えてくださるという傾向が強かったのに対して、大学生になると自分で学びとるという傾向になり、勉強の仕方をうまく変化させるのが難しかったです。今も完全にできたとは言い難い気がします。
- 一年間全学共通科目を受けてきて、授業に出ずに、いかに単位をとるかに執念を燃やしている人が多いことに、ショックを受けました。価値観は人それぞれなのでしょうがないとは思いますが・・・。  
それから、授業態度にもがっかりしました。授業中に寝るのはぜんぜん構いませんが、しゃべるのだけはやめて欲しいです。  
でも、自分自身に関しては、これ面白い！と思える授業を受ける事ができたのでその点ではよかったと思います。
- 留学生や他の学部の学生と交流し、刺激を受けた。  
興味のあるものは積極的に学んだ。  
もっと自分を豊かに実らせるために、哲学や未知の分野に踏み出したい。  
時間を大切に、いろいろな経験をしたい。
- あらゆる専門分野は、様々な面で相互に関連しているということに気付き、興味深かった。  
一つの物事を多面的に捉えることの大切さを学んだように思う。
- 面白い講義は毎回講義に出るのが楽しみだった。
- 自身の専門とは全く関係のない分野について、そのスペシャリストに学ぶことができ、幸せだと思った。様々な先生、学生と接することができて面白かった。
- こんな感じで、自分の将来のためになるのだろうか、どれくらいどのように勉強すればよいのか分からなかった。しかしながら、学ぶこと、特に自分の専門外で知らないことに首を突っ込むことは、とても楽しかった。
- 専門以外の分野の学習ができて楽しかった。刺激を受けました。
- ポケットゼミは教員との距離が近く、非常に興味深い科目が多いので、たとえ単位にはならなくとも、2回生以上でも受講出来るようにして欲しい。これは切実な願いです。上回生にこそ、新鮮な知的刺激が必要です。
- 専門的な内容でよく分からない授業もあったけれど、全体的に自分の見聞を増やすことができたので良かったと思う。
- 特にないです。
- 専門分野以外の内容について学ぶことができ、様々な事柄に興味を向けることができた。

- どんなに興味があっても、パワーポイントだと寝てしまう。  
睡眠について、詳しく研究してみたい。  
出席ないといかないなー  
記憶じゃなくて、頭使いたい。  
寝坊すると行きたくなくなる。ここで行く努力！
- レポート形式の課題をやる際に自分で様々なことを調べているのが楽しかった。テスト形式で知識の定着度を見るのも良いと思うが、レポート形式の方がより関心が持てて深い知識が得られるのではないかと思う。
- 興味深い授業もあり、多少なり自分のためになることが学べたと思う。
- 抽選に落ちてしまっていて受講できなかった講義や、語学などとかぶって受講できなかった科目もありましたが、全学共通科目はすごく楽しかったです。
- 結局専門科目とつながりの深い科目を多く取ったが、せつ々なので全く違う分野の科目ももう少し受講すればよかったと思う。二回生以降も余裕があれば、全学共通科目を受講したいと思う。
- 好奇心をもち、教養を身につける大切さ。
- 履修していても、結局興味のある授業しか受講せず、後悔...
- いろんな先生方がいらっしゃるんだなと思いました。講義によって雰囲気も違い、面白いなと思いました。
- 幅広い知識を身につけることができました。
- 授業はあくまで契機であり、学びたければ自分から学ぶことが大切だということを痛感した。全学共通科目の講義はしっかり学ぶには浅すぎ、契機とするには拘束時間が長すぎる。
- 京都大学というクオリティーからすると、もっと奇抜で大胆な全学の授業があってもいいのになと思いました。意外にも授業は淡々と進み、退屈するような授業も多々ありました。単位が取れるかとれないかではなく授業がおもしろいかおもしろくないかで学生が授業を選ぶようになればもっと全学の授業が盛り上がると思います。具体的にどうすればいいのかというのはすみませんがよくわかりませんでした。
- 入学当初、あらゆる分野の科目をとりたいと考えていたが、結局は卒業に必要な単位を揃えることが最優先。1回生から専門の授業もあり、そちらの勉強を優先させる必要もありテスト勉強に時間と労力の必要な物理や数学といった科目をとることはできなかった。単位は揃ったので、落としても大丈夫という余裕のもと、これからそれらの科目を受けてみたいとも思っている。しかし、基本的には全学共通は1回生が取るものというイメージが私の中にも、周囲にもあり、授業を受けづらくもある。
- パワーポイントの内容をそのまま音読するような授業はやめてほしい。
- 主に専門分野外の授業を中心にとるようにしたので、自分の興味の範囲が広がりよかった。また、専門分野と関連がある授業では将来活かせるような知識を身につけることができたのでよかった。

- 大変だった。
- 興味がある科目が専門科目や語学と被ってしまい、履修できなかったことが悔やまれる。  
仕方ないことだが、同じ講義を何コマも実施したりして、すべての学生が自分の興味のある科目を履修出来るのが望ましいと思う。
- 自分の興味のない分野にはどうやっても学習意欲がわからないことを実感した。
- 自分の専門分野以外のことについても幅広い知識を得ることが出来たことは非常によかったと思います。

## 7. 8 薬学部

- 必修科目や興味のある科目には積極的に取り組むことができたが、英語、A群などは結局、とりあえず単位だけでも揃えておこうという気持ちになってしまった。全学共通科目の単位は英語以外揃ったので2回生からは興味のある科目と専門科目と英語を頑張ろうと思う。
- 教員によって授業のやる気が違いすぎる。
- 必修科目とかぶって興味があって取りたい授業が選べなかった。
- 先生方の都合ももちろんあるのだと思いますが、曜日や時限によって講義の分野の充実さが違うところが気になりました。できればどの時限もあらゆる分野の講義を用意し、学生の学ぶ意欲を掻き立てて頂ければと思います。
- 楽しんで単位を取ろうという輩が多すぎ。講義の邪魔になるような行為(私語等)を教員に注意してほしい。そもそも、講義中に静かにするのは常識。そういう輩を締め出すぐらい、何ら問題はないと思う。
- 全学共通科目を一年間受講することによって価値観の革命とでもいうべき出来事が起き、学問に対するマクロな視点を獲得できた。  
入学当初は幅広い教養の意義がいまいち理解できなかったが、全学共通科目をいろいろ受講しているうちに、専門に進むにあたっていかに幅広い教養が重要であるかに気付いた。  
ほとんどの学生が一般教養を軽視するが、自分は一般教養が21世紀の全ての学問にとって必要なものであると主張したい。
- 様々な分野の勉強をしていく中で新たな知識を得、さらに今まで学んだ知識に新たな発見を得て、非常に教養が増したと思う。これから専門の勉強をしていく中で役に立つと思うので全学共通科目を受講して良かったなと感じた。
- 語学の授業は、担当教員によって成績評価の基準が大きく変わるように感じた。しかも1回生の語学はクラス指定である。これは不公平ではないか？
- 医学部の教員による「健康」とつく授業をたくさん受けましたが、いずれも出席レポートによる評価だったので全て出席しました。そのおかげで健康や生活習慣病などの知識を多く身につけることができました。テスト前に一気に覚えてすぐ忘れるよりも、役立つ知識を確実に、楽に得られたと思います。

- 専門との関係の希薄さによりモチベーションが上がらなかった。
- 京大に入って良かったです！！！！（勉強的な意味で）
- 自学自習を大切にしているのはわかるが、あまりにもゆるすぎる気がした。
- 様々な分野の専門の教授による授業を受講出来たので、自分の専門科目だけではなく、幅広い知識を身につけられて良かったと思います。
- 学びの多様性みたいなものを強く感じた1年間だった。高校とは比べ物にならないほどの選択肢を与えられ、圧倒された。
- 私は主に自分の興味のある医療系の全学共通科目を受講したのですがこれから自分の将来を考えていくうえで役に立ちました。また、自分の知識として知れるだけで興味がわきました。
- スライドのみを用いた講義があまりに多い。講義中のメモには限度がある。それゆえ復習が困難な場合が多々ある。重要部を板書する、スライドをウェブ上で閲覧可能にするなどの改善を望む。
- 自分の興味のあることを中心に講義の選択をしたので、講義の種類に偏りが出てしまい、文理を問わない幅広い知識を習得するには至らなかったと感じています。
- 色々とりたいものがあって、楽しかった。でもいろいろと取りすぎてきちんと消化しきれないままに次に進んで行ったのが心残りだった。先生との交流が多い授業のほうが楽しい印象を受けた。

## 7. 9 工学部

- やっぱり大学生になっても勉強する事は大事なんだなと思った。
- 勉強する楽しさをあらためて感じました。また、自分の将来について深く考えるきっかけになりました。出席や提出物、その他勉強を怠るなど、自分の怠慢さを再確認し反省しました。
- 興味のあることや専門を学ぶ上で必要な知識を多少得ることができたし、目指すべき方向性も見えてきたと思う。しかし、関心のある講義が一つしかなかったり、複数ある同名の講義があっても全てがクラス指定の授業と重なっているために選択できないのが、非常に残念であった。
- 知識の上でしか知らなかった化学反応を実験で見ることができたのはとても楽しかった。もっと様々な実験ができればなおよかったと思う。
- クラス指定の科目が多すぎて、幅広い知識を身につけるための一般教養であるのに、結果的に専門を学ぶための基礎のようになってしまっていると感じるので、クラス指定科目を少し減らしてもらいたいと思った。
- 自分の知らない物の考え方に触れ、新たな思考回路が開かれたように感じたことも多々あった。
- 世界のエリート学生と交流して、非常に刺激を受けた。  
互いに協力して、成果を出す未来を想像している。



- 京都大学の多くの教授の授業を受けられる、という点は非常に価値の高い物だと思う。自分は割と多くの分野に関心がある方だが、自分の専門科目以外の授業もある以上、興味関心を持ってない学生の存在が考えられるので、全体的にもう少し魅力的な授業展開ができればなおよいと思った。
- 授業を受けているが、全体として勉強が受動的になっていた。授業から学んだことを活かして主体的に行動するということがあまりできなかった。しかし、新たに興味が湧いた科目もあった。
- 教授の、授業に対する熱意が薄い。学生がもっと努力したいと思えるような授業にしてほしい。
- 全学共通科目の講義を経て得たものは、大きいと思います。  
ただ、成績が良くなかったのは残念でした。受験生の時よりは遙かに勉強して、テスト前も頑張ったのですが、それでもこの成績であったのは、地頭が良くなかったためだと思います。そういう事も踏まえて、これからも頑張って勉強します。  
これからは専門科目に移っていくわけですが、B群科目を学んである程度の予備知識を得ているので、全学科目を勉強していた時よりは楽に感じます。
- 京都大学に入った大きな理由は専門領域での深い知識の習得のほかに、専門以外の分野における知識や教養を得たいという気持ちがありました。  
京都大学の全学共通科目を受講して思ったことは、京都大学の先生方は学問に厳しい方が多いとは思いましたが、同時にこちらの学ぼうとする意識を最大限に生かしていただける方がたくさんいらっしゃるということであるとも思いました。  
こういった環境の中で自分自身の知識や教養の幅を広げていけるということに私は大きな喜びを感じました。
- 京大の授業は遊んでるみたいでした。  
ほかの大学は教育機関やけど、京大は公園みたいでした。
- 興味が持てる授業を履修することにしてはいたが、予想と異なるような授業もあった。自分の関心のない方面の授業を積極的に履修することで視野を広げようとし、ある程度達成できた。
- 全学共通科目は一般教養が広がるだけでなく、自分の好きなものを見つけたり、自分の中で新しいアイデアが生まれたり1人では気づけないことに気づけたので、全体的には満足しています。色々な種類の講義があるところがとても魅力的でした。  
難点をあげれば、講義に当たり外れがあり、履修登録の期間が短いので、ほかの講義にすればよかったと嘆かなければいけないことがあったところが残念でした。  
また、私は工学部なのですが、工学部の場合、全学共通科目のB群に面白そうな講義があったとしても、学科推奨科目でなければ単位として認めてもらえないことにも大変不満があります。
- 面白い講義は、教員自信が講義を面白く思っていて、講義内容の面白さを伝えようとする姿勢が感じられた。反対に面白くない講義は、教員の自己満足に思えるような講義が多かった。

- 大学における受講は本当に自分から積極的に学ぼうとしなければならぬと感じた。
- 大学生になって一年間過ごして、勉強に対する姿勢が甘かったように感じた。それほど熱心にならなくても単位は取得できるが、自分みずから学びに向かわなければ身に付かないことを知らされた気がします。
- 私が将来専門としたい分野以外のことも学べたのは貴重であったが、シラバスや登録確定前の時点でもう少し授業内容について理解できたら良かったと感じた。
- 数学などで急に公式が出てきたり、答だけを書く場合があったのでどうせやるのなら丁寧に解説してほしい。
- 英語などは、大学の授業だけでは勉強量がとても足りないと思うので、毎日、自分で勉強する必要があると感じた。
- B群からAB群にしたら登録者数が増えたという先生がいたが、B群として認められる科目が指定されているので、B群でもAB群でも可能な科目はAB群としてある方が選択肢が広がって良いと思う。
- 科目名から予想されると科目内容と実際の内容の差が大きくショックを受けた講座がいくつかあった。
- 大学生は自分が思っていたよりも、バイトやサークルが忙しく勉強に集中できなかった。
- やはり大学という場は高校までと違い、自分で積極的に学び、習得するという意志がしっかりしていないと何も身につかないのだと感じました。2回生からはもっと真剣に勉強に励もうと思います。
- 私は理系科目が苦手なので、講義を受けてもなかなか理解が及ばない事が多々ありました。大学における勉強はやはり生半なものではないと痛感した覚えがあります。
- 全体的に、理系にとって、文系科目が新鮮で楽しく感じた。
- この一年間はサークル活動ばかりメインになり、全学共通科目はただこなしているようなものばかりでした。  
授業で生徒に求めようとしている内容が高度な割に、試験などの評価、採点は甘く単位だけは与えているというような印象を持ちました。
- 全体的に単位を取ることを優先してあまり理解を深めることができなかったので、これからはもっと自分のためになるような勉強方法をとらなければならぬと思いました。
- A群は楽しさを重視した授業をしていただきたいです。
- 興味のない授業をとると本当につらいと感じた。
- 世界規模で物事をとらえる目線を身につけることが大切だと感じた。  
日本という枠の中にとらわれることなく、発展途上国と先進国の問題を幅広い知識をもって考える必要があるのだと思った。
- 妥当。
- 興味深かった。
- 多岐にわたる分野の学習ができて面白かった。

- 大学生活において自学自習がいかに大切であることを学びました。今後、自分の可能性をひろげるため、資格試験の勉強なども頑張っていきたいと思います。
- 「出席せずに単位が取れた」、「やっぱり楽勝科目だったわ」、といった意見を良く耳にしますが、個人的にそういった授業の連続は全くの無意味だと思います。個人の偏見で申し訳ないのですが、楽しんで単位を取る行為には反対しませんが、一般的に言われている楽勝科目しか単位修得の方法がないのであれば、最初から単位を貰っているのと等しいと思いました。一年間京都大学で全学共通科目を受けていて、非常に興味深く、将来のためにもなりそのような講義がたくさんありました。そういった講義が無駄にならないようにしてほしいと思います。
- 特になし。
- クラス指定科目について同学科内の成績評価基準を統一してほしい。
- 自分の努力不足という面もあるが授業の指定が多くあまり自分から多様な授業を取ることができなかった。教養は授業だけではあまり身につけてない気がする。
- B群科目がほとんど1限でほかの時限と比べ出席率が下がってしまった。  
身勝手かもしれませんがB群などのクラス指定科目は出来るだけ2限以降にほしい。少なくとも一つのクラスに1限の指定科目を集中させないでほしい。専門科目にも同様のことが言えて、兼ね合いを考えてほしい。
- 単位認定される学科が履修を薦めるB群をとろうと思っても、専門科目と時間が重なっていて、1回生でも、2回生でもとることができず残念でした。  
いろいろな分野の話が聞けて、見聞も広まったし、思いがけないことも知ることができて面白かったです。
- 自分の所属している学部学科の分野とは、全く異なる分野にも非常に関心の持てる分野を見つけることができ有意義だった。
- 普段の何気ないことが学問になっていて、とても深い内容であると気づかされたことに感動しました。
- 眠いかどうかは、授業内容の面白さや自分の興味じゃなくて、その日の体調の問題。起きていたい科目でも、調子が悪かったり、疲れていたりすれば、眠くなる時はある。
- リレー講義は内容がしっかりしていました。
- 教授により同じ講義でも授業内容が違い、また幅広く学べるという点では1年間、全学共通科目を受講してよかったと思う。ただ、もっと教授と学生間の交流を活発にできる工夫があればよかったのではないと思う。
- 専門分野と違う学問に触れることができ、有意義だった。また、専門分野の基礎部分を学習できた。
- スライドを使った授業では、なかなか授業内容を理解できなかったし、復習やテスト勉強が非常にやりにくかった。逆に、黒板を使う授業では、先生の熱意も感じられ、授業中に理解することができ、また復習しやすく、結果的に家でもよく勉強することとなった。

- バリエーションが豊かで、知的好奇心を刺激してくれるものばかりだった。
- 京都大学が重んじる自学自習の精神は大切なことだと思うが、教員側がそれを言い訳にして生徒にわからせようという努力を怠っているように見える教授が多くいるように思えた。内容さえ理解していれば高校の先生や予備校の教師に教えてもらったほうが数倍わかりやすいと思った。生徒の怠慢さも問題ではあると思うが、教員の側も指導に対する姿勢を見直してほしい。
- 全学共通科目を受講することで、いろいろな分野の知識や教養が得られると感じた。専門の授業とは違い、さまざまな分野の知識を得られるので、比較的楽しむことができた。
- B群の授業はなかなか楽しめた。  
A群は楽しいものも、ためになるものなどいろいろあり良かった。
- 授業の雰囲気期待していたのと違う。
- もう少し学生が興味をもつように授業の仕方を工夫してほしいなと思った授業もありました。
- 自分が興味を持っている科目が専門科目などと時間がかぶっていて受けられなかったのが残念でした。A群の卒業単位は揃いましたが、2回生になっても興味のある分野の授業はどんどん履修したいと思います。
- 基礎ゼミの授業で、受講している先輩方から刺激を受けたり、ポケゼミでは、同回生の生徒から日常生活について話を聞いたり、少人数で行われる授業では、学生や先生との交わりがあってとても印象深かったです。
- 自分の興味のある分野について発展した内容の授業を受けられて全体的に非常に満足している。  
実際に授業に出席した人数は少ないのに登録時の抽選で落ちてしまい履修出来なかったのは、しっかりと受講する意思があった側としてはそれが少し残念。  
数学などクラス指定科目の授業の教室が小さめでクラスの交流を深めやすかったことに感謝している。
- 人文系の専門的な研究内容が垣間見られ、興味深かった。
- 自分の専門以外のことも教養として学ぶことの大切さを感じました。
- シラバスにもっと授業内容を詳しく記載してほしい。  
シラバスで検索する段階で分野ごとに調べられる機能も欲しい。  
授業の初日が大切だと思いますので、45分で授業を前半と後半に分けて、同じ内容をやってほしい。なるべく多くの科目を見たいので。
- 単位をとりたがためにいわゆる楽勝科目に登録だけして、来ない人がいる一方で、その授業に興味があつて履修したいと考えても抽選で落とされてしまうのは、仕方がないとはいえ悲しかった。
- 自分の専門になる分野以外の学問にも触れてみることによって視野を広げようと思った。学ぶのが楽しくなるものもあつたけど、全く理解が追いつかず無力感を感じるものの方が多かった。

○自分の興味のあることを勉強しようと思い、取った授業が多かったが、その授業の基となる知識が抜けていたので、理解できなかった部分が多かったように思える。一方で、わからなかった部分を一緒に授業をとっていた友だちと相談し合えたりして理解を深められたのは良かった。

後期で取ったA群は自分の興味・力量に即したものであったので、納得して勉強できたように思う。

●高校までもともと異なる、大学で研究する際に求められるような学習法・習慣を少しでも養うことができたので有意義でした。具体的にはレポート（さらには論文）を作成するに当たっての注意点などが挙げられます。また、B群科目では自然科学をより体系的に学ぶことの重要性も少し理解できたように思えます。

○授業を受け、新しい知識などに触れるのはとても楽しいのですが、もっと演習問題がほしいものや、ノートをとるのに必死で説明を聞き逃してしまうことがあったのが残念でした。

あとレポートの成績の判断基準がよくわからなかったです。

●受講してみて、興味があったことでも学んでみると難しいと感じることが多かった。単位をとることで精一杯だった気がする。ただ、全学共通科目は選択の幅が大きいので、自分の趣向や能力を見つめなおすのに役立っていると思う。

○数学や物理は、楽しかったが難しかった。比較的授業には出ていたが、あまり理解できなかった。

全体的にA・B群科目が面白かった。

中国語実習も先生が面白く、良かった。

●さぼりすぎると痛い目をみるということ。

●全学共通科目は興味のあまりないことでも受けているうちに興味がわいてきたりして良い刺激になった。

●専門以外で自分の興味の持っていることを学べたこと。

○授業の内容がわからなくなってきたときは自分でわかりやすい参考書を探して勉強するべきだと後期が終わってから気づいた。もう少し早く気付けばよかった。

理系でも楽しそうなA群科目を空いたコマで探すのは大変だった。

●理系として教養科目のA群を学んでいたことは振り返ると精神的に重要であったと考えます。専門分野のみ学んでいると心に余裕が無くなる様に感じました。そのため単位上必要ありませんがA群はまだ取り続けています。

●もっと早く専門科目をしたかった。

英語での授業をふやしてほしい。

●自分で意欲的に取り組まなければいけないんだな

●自分で勉強をやれば面白さがわかりました。

●理系なので、文系的な要素を学べたのは良かった。

○同じ講義に前期・後期と続けて抽選に落ちました。悔しかったです。

- 大学以前に得られなかった知識でも、きちんと学べるのではないかと期待していたが、現実にはそうでなかった。  
気づいたとすれば、人間というのは、みな偏ってしか生きれない。文化、思想、すべてに関して、有る軸を持ち、その故偏る。しかし、己もまた偏った生き物。その中で、どうやって生き、知識を得るべきかにかんしての回答が見出せません。
- 同じ科目でも教員によって教える内容や成績評価の仕方がバラバラであり、教員によって得ることのできる知識が全く異なることが残念である。クラス指定科目などは本当に受けたい教員の授業を受けることができない場合もあり、不公平に思う。
- 様々な分野で各教員の方々がしっかりとした信念を持って研究をされているということを知って学問の幅の広さと奥深さを感じる事ができた。
- 早めにテスト勉強を始めるべきだと思った。
- 授業に出てかなりの理解を得られる講義も多かったが、事前に学習して授業に臨んでも理解できなかった箇所の説明が不明確で、あまり理解できないまま先へと進んでしまう講義もあった。
- A・Bの縛りをなくしてなるべく広く自由に取りたかった。
- あまり専門的な内容はなかったし、A群では実用的な知識も身についたように思うのでよかったと思う。B群は高校までとはいきなりレベルが変わって多少戸惑った。
- 世の中には要領のいい人と悪い人がいる、と感じた。
- 幅の広い勉強ができてよかった。自分の知らないことの多さに驚き、知らないことをもっと知りたいと思うようになった。
- やる気のある教授の授業が受けたい。
- 教員によって、すごく難しかったです。
- 実際の写真などを見て、面白おかしく説明してくれる講義には本当に魅力を感じた。
- 英語の授業内容が簡単だと感じた。英語力が定着しなかった。
- 仕方がないことかもしれないが、教科によってはかなりの予備知識を要求するものがあったりして受けにくいものがあった。  
一応授業中に軽く説明はなされていたが、限られた時間内でメインではない事項の解説はじっくりできないため、よく分からずじまいになってしまうこともたびたびあった。
- 高校までの授業とは違って、自分から学んでいく姿勢が大事だと思った。
- 大学生生活ってこんな感じだったんだなあと、一年たって思いました。A群に興味のある科目、面白い科目が多かったのに対し、B群はあまり教師の熱意が感じられない時があった。特に物理学基礎論、基礎物理化学は教師によって授業がまちまちであり、クラス指定だったので選びようがなく、いやな思いをした。
- 一回生後期はあまりにもハメを外し過ぎた。  
反省して、2回生からは実直に勉強していこうと思う。
- 特になし。

- A群は単位をそろえるためだけに履修しましたが、まったく興味がなく、単位をとったところではほとんど身につけていないと思います。  
シラバスの説明では楽しそうに書いていますが、実際の授業では・・・というギャップの激しい授業がほとんどでした。
- 良い講義は先生の話も興味深いもので、楽しく講義を受けることができた。しかし、先生によっては、学生の理解などお構いなしに、自分のペースで話をするだけの先生もいた。こういった先生の講義は大概、話の仕方が単調なもので、どこが大切なことなのかわからなく、最終的には興味を失ってしまう。  
また、他の学生の態度の悪さも目立つ。単位が取ればそれで満足という学生が多い。そういった学生は遅れて講義に来たり、後ろのほうで雑談をしていたりと、真面目に講義を聞いている学生の迷惑になっていると思った。  
こういった事をなくすためにも、学生達の意識を向上させられるような環境づくりを要望したい。
- 折角の機会なので、2回生でも時間が合えば全学共通科目(A群)を受講しようかと考えている。
- 興味深い授業もいくつかあったので、今年もまた興味ひかれるものを受講していきたい。
- 本(特に新書)に興味を持った。授業は一般教養を身につけるにあたって、スタート地点にすぎないと思う。だから、それをきっかけに自分で積極的に勉強することがより大切だと思う。そこで新書に注目した。専門書は難解であるが、新書は比較的内容が平易であるので、授業で興味を持った事柄の理解を定着させるという面で非常に有用であると思う。特に心理学・哲学・経済学などに関しては、多くの新書があるので積極的に読んでみたい。
- 単位をとることに終始徹してしまった印象がある。
- 専門以外の幅広い教養が身についたと感じた。
- 授業の楽しさや授業内容の理解度、成績評価の方法、単位取得の難易度などが担当する教員によって著しく異なる。
- 高校では習わない発展的内容を学習することで、文系科目にも興味が持てた。  
B群科目は高校内容からの発展が大きすぎて、授業についていくのが大変だった。
- 今でも多種多様な講義があるように見えるが、学生が更に多様な機会に触れ得るようにこれからも努力して行ってほしい。
- A群はやはりこの科目が学びたい、というよりも単位がほしいという理由から選んだものが多かったように感じます。
- 勉強を怠りすぎたと後悔している。
- 専門の授業内容に期待が膨らみます。
- 良い意味でも悪い意味でも自由な取り組みが保障されていたので、力の抜きどころを見極めなければならないと感じた。教員の自己満足のような授業や明らかに投げっぱなしの授業はいくら学生が熱心でも意味が無いと思った。

- 自分で勉強するのが一番。
- 専門分野外の講義を受けることができたのは楽しかった。抽選になる人気講義はなるべく大教室でやって多くの人が受講できるようにしてほしい。
- まわりがあんまり勉強してなかったり、そんな雰囲気だったので、勉強する気が薄れてきた。
- 専門分野以外で興味ある科目を受けたいと思っていたが、抽選で落ちたり、クラス指定とかぶっていて受けられなかったためやる気がなくなった。  
抽選に関しては仕方ない部分もあると思うが、抽選でうかって履修はしていても授業を受ける人が少なくて教室の半分ほどが空いている授業も多いので、もう少し当選者を増やしてもよいのではないかと思う。
- もっと授業を学生に向けてやってほしい。  
声が小さくて何を言っているのかわからない先生もいる。
- 工学部物理工学科のコース分属の決定方法が分からない。自分の成績には特に問題がないはずなのに希望のコースに配属されず、全然単位をとっていない友人がそのコースに入っているのが非常に不満である。人生に関わる重要なことなので、方法は明確にしてほしい。大学は非常に不透明だと思う。
- 自宅からの通いだと、勉強やバイトにあてる時間がなく、厳しい。
- 履修の抽選は少し不満があります。受けたい科目が全然受けられませんでした。抽選は5回やって全部はずれました。
- 最初はやる気があっても時間が経てば、すぐに楽なほうへと流れて行ってしまうなど感じた。
- 大学の勉強のレベルの高さを感じた。  
教員により親切であったり不親切であったりの差が激しいと感じた。
- 先生間により、同じ科目でも難易度の差が結構大きい。各先生の授業を尊重したい等の考えから、あまりこのことはしにくいとは思いますが、コース分属等に影響する生徒もいるので、できれば全体としての基準みたいなものを設けてほしい。
- 高校までと違い、答えのないことに対してどう考えるかが問われる部分が多くてとても面白かった。  
図書館に行って自学自習することの大切さを教わった。
- 女の子って大事だね。
- 評価方法を統一してほしい。
- 京都大学たる自由な学風が失われつつあると思った。例えばレポートを出して学生に勉強させるところが散見された。あまり学生の要望に迎合しすぎても結局学生を甘やかすことにつながらと思う。
- いかにして知識を自分で整理し組み合わせて考えていくことが大事かと思いました。とくに物理学実験は後々自分に必ず役立つものだと思います。
- ポケットゼミは少人数による議論が中心で大学に入るまでは経験したことの無いタイプの授業だったが、非常にためになった。



- 全学共通科目の講義はつまらないものが多かった。
- クラス指定でいい授業に当たらなかったのがとても残念だった。
- あまり授業に出なくなった。非常に情けなく思う、来期からはもっと有意義な学習をしたい。
- 自分の専門科目かどうかにかかわらず、さまざまな教科を学べることはおもしろかった。しかし、それらすべてをきちんと学習することは難しくあまりに専門科目から離れた教科などは結果として蔑ろになってしまうこともわかった。
- 上回生になり、専門の学問に入る前に京都大学・大学生というライフスタイルに慣れておくという点でとても良かった。ただ、もっと自分の身になるような学習が必要であったと反省する点も多かった。少なくとも、今後の学習の中でこの反省は生きてくると思うし、生かしていきたいと思う。大学生と言う完全自主性の学問における登竜門として、全学共通科目は非常に有意義であったと思う。
- 感動！
- もうすこし授業はわかりやすいものと思っていた。  
もっとも、「自分で勉強する」という言葉の意味はよくわかったが。
- A群：やや幅広い教養を身につけることができたと感じている。  
B群：授業がわからない、課題が難しい等様々な悩みがあったが、今となって考えてみればその悩みで自分は成長できたと感じている。特に、物理・数学の知識が拡大したことが良かったと自分としては感じている。  
C群：自分の英語の知識の低下を防ぎ、フランス語という教養をある程度身につけられた。非常に教養になったと感じている。
- 様々な分野の学問に触れることができ、自分の価値観に良い影響があった、と感じました。
- もっとまじめに勉強しないといけないんだと分かった。
- クラス指定の科目と時間が重なった全学共通科目は、興味があっても履修を望んでも履修出来ないことが残念でした。
- 全学共通科目では、今までなんとなくでしか知らなかった知識を深めることができて、ためになった。
- どの教科も興味深く、楽しかったです。
- 幅広い学問分野があることを知った。
- 授業内容に対する興味が非常に大事だと思った。
- やはり今まで触れたことのない分野については理解しづらい部分があるなと思った。
- 試験については、過去問を配るなどして難度がわかるように配慮がほしいと思う。
- 大学の授業の進め方は難しいのだろうなと感じました。
- 抽選により履修が出来ない科目は、次の年度で優先的に履修出来るなどというふうにして欲しいです。
- 特にA群科目が、高校にはまったくないような教科ばかりで、その数も多くてよかった。他の大学ではそんなに選択の余地が無いようで、改めて京大に入ってよかったと思う。

- 勉強だけをやっていくことの意義を失った。
- 専門科目以外の幅広い分野のことが学べたのはよかった。  
ただ、「楽勝科目」という言葉に流されてとった科目はあまり興味を持てず面白くなかった。
- A群の科目でとって見たものの、内容が自分に合わなかった、というものがあつた。他のものをとろうにも大抵一回目の講義に出席しなければならないものが多く結局そのコマは空いてしまうという結果になったのが残念だった。
- 勉強に対するモチベーションが上がらない。
- 黒板にひたすら書く授業よりかは要点をまとめたレジュメを配布し、細補足的に黒板で付け加える授業のほうが効率がいいはず。
- 例えばB群のクラス指定で、同じ名前の授業であっても教授によって成績の基準や試験難易度（問題の難易度に加えて持ち込みの不可など）などがさまざまにもかかわらず点数は同学科の他クラスと同じ扱いで、不公平だと感じざるを得なかった。  
工学部のためほとんど授業が埋まっており、真に興味のある授業が取れなくて全学共通科目の印象は、特にA群はあまりない。
- 入学当初に感じていた一般教養に対する意識はもっと向学心のあふれるものであつたが、今では単位を取るためだけにと意識が変わってしまった。
- 主にB群科目に関してであるが、様々なことを勉強していくにつれて、学問のつながりのようなものを感じるようになり、またこのつながりを見つけるごとに快感を覚えた。一部の人を除いて、京大の先生方は学問の面白さを伝えようと、よく工夫された興味深い話をして下さり、非常にためになった。
- 初めての大学生活のスタートとして受講したが、予想以上に授業が遅く、大学としてもっとテキパキ授業をしたらいいと思ったのだが、大学はもはや自分で学んでいくところだと気付いた一年だった。今期は自分の興味関心のある分野に対してもっと積極的に学んでいくつもりである。
- 「現代の経済学」では、授業が文庫本を用いて行われ、学生は授業時間外に数冊の文庫本を読む必要があつた。また授業中に学生が自分の考えを述べたり、教授が映画や本を薦めたりした。この科目で経済学が身に付いたかどうかは定かではないが全学共通科目のあり方を考える契機になった。  
「偏見・差別・人権」におけるリレー講義担当教授の一人は学生間で楽勝科目という噂が立つことを異常に嫌悪しておられたが、単位の取得しやすさは講義の目的からすれば瑣末なはずであり、重要なことは、学生自身が自力で人権問題などを考える後押しをすることではないのか。  
全学共通科目は専門科目では学ぶことができない教養を身に付ける科目だと考えている。一方で教養は他人から教わる類のものではない。つまり、座学で身につく教養は有り得ないのだから、般教の授業で教員のすべき事は、学生に専門以外の分野へ興味を抱かせ、自主的な学習の手助けを行うことではないだろうか。

- この一年間に様々な問題に直面してきたことで、問題を対処したり、よりよい人生を送ったりするためにどう行動すべきかを学んだ気がする。
- より良い学習環境をつくる為、教員方をはじめたくさんの方々が努力されていると感じた。その熱意に応じて我々学生はより一層努力していかなければならないと考えている。
- ほとんどが作業みたいな時間だった。
- B群科目よりもA群科目のほうが楽しみながら受講することが出来た。今後は試験期間に焦って勉強するのではなく、日々学習する姿勢を持つことが重要だと考えた。
- 京大に入ったら自分に興味がある科目だけ勉強できるのかと思ったが、単位のために興味のない科目（私にとってはA群、第二外国語）の勉強（まあこれは必然的に単位のために）をしなければならなくなって少し落胆した。まあ科目選択に失敗したといえばそうなのだが。やはり、これからも自分に興味がある科目だけ勉強したいかなと思う。あと、成績評価の方法がシラバスに記載されている通りではなく、教員によって変わる科目もあったので、できるだけシラバスに統一させてほしい。
- 自分の知らない分野の事を知ることができたり、間違った知識を持っていたことを認識できて、新たな知識が増えて良かった。
- 単位が意外と取りやすかった。
- 合格・不合格に対してもっと明確に学生に示してほしい。
- 専門以外の講義が思っていたよりもおもしろいものが多くて、満足できた。
- いろんな事を研究している人がいるということ。
- 勉強する意欲がどんどんなくなっていった。もっと意欲を掻き立てる授業を行っていただければ良いのに、と考えていました。
- 特にありません。
- 特にはありません。
- 科目毎に違いはあれど、出席などがあまり重視されず、評価には最終的な実力が試される科目が多かったことから、やはり京都大学では生徒の自主性が重んじられる傾向が強いのだと感じた。
- 試験は全体的に楽だと思う。
- 特になし。
- 自分でできることをコツコツ勉強しようと思います。  
この一年ちょっと背伸びしすぎて自分のペースを見失っていた感があるので反省です。
- やっぱり専門以外のことには興味もてませんねー…興味もたせてくれるように話してくれたらいいのですが…  
ただ、勉強は楽しいなあと改めて思わせてくれました。この一年は（理系のみ）。
- 「単位が降ってくる」と散々聞いていたが、そんなことはない。やはりある程度自分で勉強しなくては、たとえ降ってくるものであっても取れないのだな、と身を持って実感した。
- 大学に入り、自主的に勉強することの重要性がよりいっそう理解できたように思う。

- まじめにやればちゃんとできる。

大学生になってもコツコツ勉強するのは大事なんだなあと感じた。

- シラバスの内容と、実際の講義内容や雰囲気ギャップがあり、最初の意欲が長続きしない場合が多々あった。また、単位の取得に追われ、講義自体をあまり楽しむことができなかつた。

- 工学部での一般教養科目の「縛り」はやめてほしいです。不公平です。

- 自身の不勉強の度合いを痛感した。

- 科目によっては、過去の試験問題が生徒の間で出回っていたので、試験は情報戦であるような感じがした。

A群科目は授業が話を聞いているだけのものが多く、多少興味のある話であっても 90 分も集中力は持続しない。一方的に話すだけでなく、何か生徒が手を動かすようなこともすれば、より良い授業になったかもしれない。

基礎物理化学は、毎週少しずつでも宿題を出していけば、次の授業の理解につながると思う。生徒からすると宿題が出されるのは確かに嫌だが、授業に置いていかれるのもつらい。

- いろいろな世界をのぞくことができ、興味深かった分野を発見できたのがよかった（もちろんそうでない分野もあったが）。全学共通の科目のシラバスを見て初めて知る分野も多く、大学に入って視野を広める良い機会になったと思う。

- 去年、何を得たのか全く分かりません。全てが講義のせいではなく自分がのせいでもあります。1年間何をしてきたのか分からないというのが正直な感想です。

- 授業内容がひたすらつまらない。

単位のためだけにとる科目なども生じてきて、学んでいるという実感がなかった。

- なんとなく出席していればとれるようなものも多く、それに甘えてしまった。

- 学びたいと思っていた内容の講義が存在せず、はじめは不満であったが、思っていたよりも面白かったという講義がいくつかあり、総合的に見ればよかったかと思う。

講義を受けている他の学生の姿を見て、これからの大学生活をどのように過ごすかの指標になった。

○nashi

- 何が身に付いたのかよくわからなかった。

- 京大は自由の学風というようなことが盛んにいわれているが、やはり自由を持て余してしまうことが多いように思う。それは学生側に問題があることは明らかなのであるが、大学側にもそうならないようなフォローが求められているのではないだろうか。大学は自ら学ぶ場所であり、そのような配慮は不要との意見もあるかもしれないが、最低限あってもよいと思う。

- 興味がある科目も、楽勝科目として認識されると、単位だけを求める学生が集中し、受けられないことがあるのが問題である。

- いろいろな教授がいておもしろかった。

- 今まで知らなかった考え方や感じ方を吸収できた。

- 興味を持てる講義ほど簡単に単位がとれて、はっきり言ってつまらない講義ほど単位がとりにくかったように感じる。

講義を聞くより自学したほうが効率的だと感じる講義が多かったように感じる。

- 自分が今学んでいることが現実の世界ではどのような意味があるのかの理解に苦しみ、しばしばむなしくなった。本当に自分が興味を持って研究に取り組めることをこれから見つけられるか不安になった。

- 全学共通科目の授業を受けて思ったことは、やはり人気の授業には受講希望者が多くて、結局は高い倍率の抽選に当選しなければならず、落選してしまった場合には勉学の意欲をなくしてしまう。

- 学生が興味をもてるような話し方をしてほしい。

- 授業に出ることが勉強ではないと分かった。

授業に出ることは手段であって目的ではない。つまらない役に立たない授業に出るよりはその分野の本を一冊読むほうがはるかに有意義だと思った。

- 単なる雑学という程度に考えて受講していた教科などでも、実際の生活でその教科で学んだことと出会うことがあった。

精神病理学入門で、阪神淡路大震災に被災した人の精神的状況が取り上げられたことがあったのだが、そのときに「頑張れ」と安易に言うことの難しさを考えさせられた。そして後期にその科目を受講してすぐ後に東日本大震災が起きた。テレビ中継などでキャスターの人が「負けないで頑張ってください。」というわけだが、「ああ、このような時のことを授業で言っていたんだな。」と感じさせられた。

- 熱意をもって教えてくれた先生の授業が興味深く、おもしろかった。

- 1回生では楽しようと考えすぎていて、自分から意欲的に勉強しようと思っていなかった。でも、これではだめだと思うようになってきた。2回生からは、とくに専門科目をがんばっていきたい。

- 講師ごとに結構評価方法が違うので、少し不公平な感じもしたが、各々が意欲に応じた教養を身に付けられる科目がほとんどで良かったと思う。

- なし。

- 全学共通科目の単位数で量れる教養の程度など高が知れている。

全学共通科目一般が、中等教育までのカリキュラムにないからというナンセンスな理由で、あまりに簡単になりすぎている。ゆとり教育制度が何のためのものだったのか、教育機関として大学は考慮すべきである。

そして授業に出ることを強制するのは学生個人個人の個性を殺す行為であり、内容を既に理解している者が授業に出席することが苦痛になり得る事も併せ理解してもらいたい。

全学共通科目を履修しないと専門教育が受けられないシステムも大きな問題点であると思う。

履修制限という名の下、学生の意欲を無視した抽選も問題視すべきである。

○学問の深さ。

○先生方の専門分野における知識の多さに感服した。

文系に進み、考古学を研究してもいいなと思った。

○高校の時は、分からないことがあったら気軽に職員室に質問に行けたのだが、大学に入ってそれがなくなってしまう、分からないことを放置してしまっただんどん内容に付いていけなくなってしまう。自分はゆっくり考えないと、何が分かっているか分からないタイプなので、授業中や授業前後に質問するには時間が足りない。質問コーナーみたいなものがあれば少しは勉強意欲が沸いたかもしれない。

また、全般的に授業が分かりにくかった。先生方はもう分かっているから何気なく説明しているのかもしれないが、全く分かっていないこちらからすると、何を言っているのかさっぱりわからない時があった。教科書がわかりやすければ自分で勉強のしようもあるのだが、分かりにくい教科書だと、どこからどう手を付けていいかもよく分からなかった。高校の知識と教科書で前提とされている知識の差がまず埋められていないため、分かりにくかったのかなと思った。

●単位をとることに精一杯になってあまり教養は身につかなかった気がする。

●ある程度仕方ないことだとは思いますが、科目によって教師側の意識にもすごく差があると感じた。すごく熱意のある方も生徒を置いてけぼりにしてどんどん進めていってしまう方もいた。

●単位にこだわり過ぎていたと思う。単位認定されなくても、もっと自分の興味のある授業を取ればよかった。あと、先生によって授業の理解度が全然違った。たとえ非常勤講師の若手の先生であろうとも、学生に人気のある先生はもっとたくさんの授業を持つべきだと思う。

●全学共通科目は、簡単なものばかりでなく興味があるものを取るように心がけた。当然シラバスを参考にしたが、授業内容が期待と違ったことも多々あった。期待以上だった、新たな興味につながったということもなくはないが、シラバスから正確に何の興味を満たしてくれる授業なのか読み取れるようにしてほしい。学生の側から教員と積極的に関わっていけば改善できたかもしれないが、それができない自分の行動力のなさが目下の悩みである。

●自由な大学だと思った。

●単位が取りやすすぎると思った。

●ポケゼミに前期・後期ともに興味あるものすべて抽選落ちしたのにはどうかと思った。そういう人への補填とかはないのでしょうか？

全学共通科目の授業は期待外れのものばかりであった。

●全学共通科目に関しては、自分の興味のある分野を選択して、充実した学習が出来たので、満足している。

●大学での1年間を終えて自らを省みてみると、入学当初に抱いていた自学自習の精神が重要であることを痛感した。同時に、もう一度初心に戻って学んでいこうと思う。

●あまり興味のないことを単位のために受講するのはつらかった。

- ・クラス指定のせいで、興味のある授業を履修することができないことが多々あったのは、非常に残念。
  - ・だんだん単位ばかりに気をとられるようになって、授業の内容に対する興味をもっと大切にすればよかったと思う。
- 自分が今まで知らなかった様々な知識を得ることができたことは、とても良かったと思う。
- やっぱり単位の取りやすさで授業を選ぶのではなく、自分が興味のある授業を選ぶべきだと思いました。
- いろいろな知識を得たことで視野が広がった。
- 関心がある講義よりも、単位が取ればそれでいいというような講義のほうが多かった。
- 退屈な授業が多かったです。特にA群は教員の自己満足授業ばかりで苦痛でした。
- 友人と学習室24で勉強会を開き、一緒に学習するという貴重な経験ができたのはよかったと思っています。いい刺激になりました。
- 興味のないことに関して非常に勉強しづらい。高校生の時より遥かに。
- 授業中にうるさい学生がいたのが、嫌だった。

学生が明らかについてこられてない授業があった。
- 学部で指定された科目や少し自分の専門分野と関係のある教科については十分に身に付いたものがあると感じましたが、全く自分の分野と関係のない科目については試験が終わってしまうと、もうその分野に触れることがなくなってしまい、結局として身に付いたことは少なかったように思います。
- 友達がまともにできなかつたので相談も雑談もでき、いろいろと不便でした。今年は大丈夫そうです。
- 一般教養の授業は本当につまらないと思った。自分が興味をもてていないのも一つの原因かもしれないが、授業自体が自分の興味を引き起こすことのできるようなものでなかったのも大きな原因であると思う。
- 高校までの「教えてもらう」というスタンスではなく、「自分で考えさせる」というスタンスで授業が進むのが新鮮だった。
- A群の一般教養の科目は、自分の興味のある科目を自由に受講することができたので、非常に楽しかったです。ただ、B群のクラス指定科目については、工学部に在籍する学生としてはおかしいのかもしれませんが、理解しにくいものが多く、あまり興味をもてず、勉強するモチベーションをいまひとつ持てませんでした。
- 最初入学したときには、大学ではあくまで専門科目をきっちり勉強して習得することが一番だと思っていて、全学共通科目をそのための踏み台ぐらいにしか考えていなかったんですが、意外に専門科目だけに将来へのヒントがあるわけでもないなぁと感じました。大学のこの学部にいるから将来はこうならなければいけないっていうものは特に決まっていなくて、大学自体のシステムのこともそういう風に未来が縛られているようには感じないので、様々な世界に触れられていい環境だなぁと思っています。

- 特にありません。
- 特にないお。
- 学科によって単位の取りやすさの不平等さが大きすぎる。
- 課題を通じて、自分が少しだけ興味をもっていた分野に本気で取り組み、知識を増やすことができよかったですと思います。

## 7. 10 農学部

- いろんなことを勉強できて楽しいです。
- 大学生は、高校生と違って何でも自分で決めて動かないといけないので、最初は戸惑いました。でも、1年間たって、だいぶ自分から学ぶということができるようになったと思います。
- レポート試験は大変だったが、自分の発想を盛り込んだり、わかりやすいレイアウトを考えたりと、ひとつの作品を作り上げるような楽しさがあった。やり終えた後には達成感もあったし、その分野に対して自分なりに考察が深めることができた。採点するのが大変だと思うが、レポート形式の授業がもっと増えればよかった。
- 自分が理系であるせいかA群科目は本当におもしろいとおもえるものは少なかった。  
自分の感違いかもしれないけれどシラバスを読んだ時の授業の印象と実際に授業を受けた時の授業の空気感が違う気がする。  
なんだかんだで、要領よくやる人が得をするシステムになっていると思う。出席の取り方が甘いと思う。
- 自分で勉強していかなければならないと思った。
- 幅広い分野の授業を受けられて、興味が広がった。興味を持つようになった事柄をもっと授業後に自分で参考書などで勉強するとよかったですと思う。
- 予想とは違うものもあった。とにかく、知識は増えたと思う。
- 先生が自己満足で授業をしているように思えた。学生に対して理解させようという気持ちが感じられなかった。
- 文系向けの科目もとれるので、高校で歴史もやりたかった自分としては面白かったです。
- いろいろな知識を得ることができました。
- 元々専門分野以外の様々な科目にも興味があったので、それを専門の教授に教えてもらえた事は、自分の歩む道をただの一本道からもっと幅広いものに変えてくれた。将来の仕事などでは役に立つかわからないが、自分の知識の幅を広める事はその知識の内容にかかわらず、人間の幅そのものを広げることにつながると思った。
- 自分がこれから学部で学ぼうとしている専門分野以外にも、興味のある分野についてそれなりに深く学ぶことができ満足した。大学で学んでいるという実感が湧いた。
- 素晴らしい教員と出会うことができ、将来の研究内容のヒントを得ることができた。
- レベルが高いか低いかで、自分に合った難易度の授業が見つけられないことがあった。



○様々な分野の授業を通して幅広い知識を身につけられるので、全学共通科目は比較的楽しかった。私の学科は必修もなくすべて選択制だったのも大きいと思う。

●講義の出席を成績評価に含めるのは必ずしも悪くはないが、度を過ぎて出席重視をする講義がいくつかあった。

試験の成績が十分である(受講者の能力が十分である)なら出席は必要ないと考える。

また、講義内容が興味深ければ自ずと学生も参加するはずだ。

●自分のやろうとしていることのために必要な予備知識の多さ・重要さを知ることができ、またそのこと以外の分野の学問がどれほど多様か、そして重要かを知ることができたと思う。

●それなりに楽しく授業ができたのが一番良かった。しかし幅広い知識や思考力はさほどついたとは思えない。

●京大らしい授業に概ね満足だし、失望もしていない。ただゼミ形式の授業がもっとあってもいいかな、とは思った。議論好きな人間をもっと育てるべきだと思う。

●専門外の科目をとると、新しい刺激が受けられてよい。専門の異なる友人もでき、彼らと自分の専門のこと、将来の進路、その相異なる専門を両方生かせる研究や技術を語り合えることは大変有意義だった。

●自分の専門分野にとらわれず、多岐にわたる知識を身につけることがこれからの社会では必要とされていると感じた。

●新しい知識がどんどん入ってくるのは楽しかった。ただ、授業中の私語があまりにもひどすぎる。これをどうにか改善してほしい。

あと授業の最後に入ってきて出席カードだけ出して帰って行く人にも腹が立つ。これの改善も要求する。

○全学共通科目で出会っていなければ一生学ぶことのなかったであろう学問分野に、新しく非常に興味を持つようになりました。今まで知らなかった知識もたくさん身につけたように思います。知識だけでなく、人間性の幅を広げられるような素晴らしい出会いを提供していただけのように思いました。

●全体的に説明が難しい、または下手だと感じます。私の知識不足が原因でもあるかもしれませんが、それを大目に見ても多くの講義で先生が一体何を伝えたいのかということが伝わってきません。原因としては言いたいことを詰め込みすぎたり、学生の背景知識を考えず、専門用語を説明なしに使い始めたりと聞き手への意識が少し疎かになっているからだと思います。学生が講義を真面目に聞いてくれない、と嘆いて(もしくは怒って)いる先生もいらっしゃるかもしれませんが、「もしかしたら自分の教え方が悪いのではないだろうか?」ということを一度問い直してみてもどうでしょうか。これは、決して先生方とっても損なことではありません。基本的に理解力の乏しい学生に物事を分かりやすく教えられるということは、学会の発表などの際に聞き手に自分の意図を正確に明快に教えることができるということにつながると思います。なので、講義の場を発表の練習の場とでもとらえて聞き手を意識した講義をしてもらえたら、学生にとっても嬉しいことだと考えています。

○もっと自分のためになるような科目をよく考えて選択すればよかったです。

○専門以外の幅広い知識をつけるのに非常に良い機会になったと思います。

●大学に入って勉強してみて、改めて学問は奥が深く、追求していくと困難にもぶつかるものだった。しかし、自分で調べたりする中で、自分が直面している問題に対する解決の糸口を見つけることができた時は、楽しさも感じることもできた。授業を受動的に聞いているだけでは、わからないことばかりに思えたが、自分でも調べたりしていると、つながりがみえることもあったので、今年からは、もっと能動的に授業に対して臨みたいと思う。

●自分の興味関心に応じて専門外の授業を幅広く受講できる点が魅力的でした。

●世界には本当に様々な分野があり、その中でいろんな人たちがそれぞれ活躍しているんだなあと思った。

○なかなか、それぞれの教科に掛ける時間がなくて、全ての講義を真剣に聴くことができなかった。もっとゆとりのある時間割にして、それぞれ、じっくり学べばよかった。

○高校の勉強と大学の授業との違いに戸惑いました。しょうもないことですが、90分授業というのも慣れないことの一つでした。話を延々聞いている授業が多く、眠くなることも正直多かったのですが、幅広い話を聞くことが出来、満足しています。

○専門分野もほかの様々な分野も面白いです。

●学生の出席に強制力があまりになく、加えて、自分の自立力のなさを思い知らされたので、期待していた通りにはいかなかった。

○京大では何かを求めれば答えが見つかる場合が多いが、待っているだけじゃ何も与えてくれないと感じました。

歴史についての幅広い知識を身につけたかったのに、全学共通科目の歴史系の授業は専門的なものが多く、授業には期待できな感じました。本をもっと読まねばなりません。

KUINEPの授業はどれもいい刺激になりました。中高より、こういう教育を受けさせることができていると、日本人の英語への苦手意識を軽減することができるでしょう。

○将来、自分がやりたいことの展望ができた。

自分が生きてきた世界とまったく違う世界の人々と触れ合え、刺激を受けた。

●非常に興味深い教養科目が多くて、単位を取りきった来年以降でもどんどん履修していきたいと思いました。勉強することは本当に楽しいと思いますし、この楽しさを知らないいい加減な京大生は本当に愚かだと感じました。

ロシア語楽しかったです。※※先生の深い教養や※※先生のうまい教え方に影響され、僕自身も非常にロシア語が好きになりました。本当にありがとうございます。これはいくら感謝してもしきれません。

○多くの選択肢を持った時に、怠け始める自分のがっかりした。

●様々な種類の講義のなかから選ぶことができ、教養が深まったと思う。どちらかといえば、教養を深めるきっかけをつくっていただいたという方が正しいかもしれない。これからの大学生活を大切に、自学自習を続けていきたいと思う。

- 学生にあいだには楽勝科目、というものが存在しているが、やはりちゃんと勉強した人だけがそれ相応の成績を受ける、といったシステムにしてほしい。授業に出席しなくても最後の試験で先輩からもらった過去問だけ丸暗記すればいい、といったような授業が存在していることに対し、啞然とした。
  - 教師によって非常に偏りがある。全く同じ内容のパワーポイントなどを半年繰り返し見続けさせる教授もいれば、計画的に内容を組んで時間配分を上手にし、生徒が半年間飽きないように工夫してくれている教授もいた。京大の一般教養科目は、あくまでその分野に興味をもたせる機会提供の場であり、生徒自らが授業外にその分野に関する本を読んだりして、授業に対して積極的に知識を深めていく姿勢でないといけないことが分かりました。
  - 履修して楽しかったものがあると同時に、授業時間がたまたま空いているからいれただけのような科目も存在し、自分の関心に沿った勉強ができたとは言えなかった。一回生のうちは、ほぼ必修のような形で取らなければならない科目も多いので、仕方がないのではないかと思うが。
  - 面白い科目もあったがやや少数派。微分積分学や線形代数学などは、高校数学並みのつまらなさに難しさと教員のやる気のなさが組み合わさってひどいことになっていた。クラス指定科目でなければ履修する人は少ないだろう。
  - 京大の講義は興味深いモノばかりなのだろうと思っていたが、実際に受けてみると期待外れであったと言わざるを得ない。教員の講義に対する工夫があまり感じられず、機械的にやっているように感じる。放任主義は別にかまわないが、講義に学生を楽しませるような要素を盛り込んでほしい。
  - 全学共通科目は、さまざまなものがあり面白いものも存在していたが、それを見極めるのは新入生にとっては、難しいと思った。もっとどんな授業があり、生徒の評価がどのようなだったとかを詳しく知りたいとは思った。
  - 専門以外の科目を勉強出来て、新たに興味を持てる分野ができてよかった。
  - 自分の好きな科目を選択しても、なんとなく浅い知識しか手に入らないようであり納得できない。
  - 楽しかった。
  - 自分が100%興味があるわけではないような科目にも、もう少し真面目に取り組めばよかったと思う。
  - 受け身の姿勢でいるか、積極的な姿勢でいるかによって、授業から得られることが大きく違ってくると思った。
  - 興味のある講義はとてもためになり、今後の自分の進路を考える際の良い材料になったが、つまらないものはひどくつまらなく、教授の単なるエゴ授業といっても過言ではなかった。
  - 健康科学のおもしろさにびっくりした。
  - いろんな分野の話が聞けておもしろかったです!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
- 各学部提供の授業をもっと増やすとさらにいろいろ聞けておもしろそうです。

- ありません。
- 自分が教養として学びたい分野が、科目として開講されており、興味深い授業と出会うことができた。学べることの楽しさを感じた。授業で学び、さらに理解を深めることのできる環境、つまり図書館や担当教授のアドバイスなどを利用することができるという大学の環境を実感した。
- 京都大学の特色かもしれませんが、学習意欲の低い学生があまりに多いなと感じました。大学に何を求めるかは人それぞれですが、モチベーションのボトムアップをはかる必要があるのではないのでしょうか。
- 知らなかった知識を得て、新たな世界に出会う感動こそあったものの、高校生のころに受けていた授業との落差や教員の熱意のなさに愕然とした。海外の学生が一生懸命に勉強に励んでいる中で、自分はただ流されるまま、その場しのぎの勉強をするばかりで、この一年は目標も成果もなくただ過ぎ去っていったように思う。その分自由な時間が増え、自分の将来や今について考えたり、楽しんだりする余裕ができたことはよかった。大学生活は、大人になるまでの、最後の夏休みのように感じた。
- 高校までの勉強と違い一つの授業科目は一週間に一度しかないので、それに合わせた学習をどのようにすればいいか、いろいろ試行錯誤した一年間だった。さまざまなことに挑戦する機会もあり、そうした経験の中でいくらかは自分自身の視野を広げることもできたので、私にとって全学共通科目はとても充実したものだと思う。
- 結局私がやる気がなかったのが、すべての問題だったのです。  
完全燃焼こわいです。単位はあったので、無難に卒業しようかと思えます。
- 最初は面倒くさいとしか思ってなかったのですが、やるうちに必要なことを学んでいると感じました。
- 先生の研究テーマや、興味のあることを、好き勝手に語ってほしかったが、何かしらに縛られているのか、あまり先生が楽しんで授業をやっていなかったように思う。  
シラバスなんて無視してかまわないし、知識を入れようとかなんてなおさら思わなくていい。もっと自由に、やりたいように、授業を進めて欲しいと思う。ここは京大なんだから。
- 自分で理解していないのに授業だけが進んでしまうと、勉強する気がなくなってしまふ。勉強は、自分で理解することで面白く感じるし、そうしなければ知識は身につかない。だから、教科書通りの授業がなされると、自分で教科書見て自分のペースで勉強したほうがいいと思って、出席する気がなくなってしまった。  
教員が、授業内容以外の社会問題などについて自分の考えを話してくれるのが面白く、学生に伝えたいという熱意が感じられてありがたかった。  
また、ある教員が授業内容について「今全部わからなくてもいい。すぐにわかるわけないのだから。何度もやれば身につくから、今は頭の片隅に残る程度でいい。」と言って下さった。それを聞いて肩の力が抜け、勉強する気力が増大した。
- もっと勉強しようとおもった。

○受講した中には、非常に興味を持てる授業も、おもしろいと感じられない授業もあった。前者には授業外でたくさん学習しなければならないものも多かったが、それも楽しかった。ポケゼミも受講してよかった。

○結局は、自分のやる気次第だということを感じた。今、自分が何をやりたいのかわからないので、全学共通科目で何を取るべきか、まったく決められなくて困っているが、これは自分で解決するしかないことだと思う。

全学共通科目では、先生がやりたいと思っらっしゃる授業を提供してもらえれば、幅広い選択肢ができてよいと思う。

●最初は高等学校の勉強感覚が抜け切れていなかったために、授業で先生が言ったことをそのとおりに記録して一字一句しっかりと記憶に留めることばかりを気にしていました。ただ、そうするとどうしてもわからないことばかりが出てきて大学の勉強は全然ダメだと考えてしまいました。しかし、よく考えると大切なことは授業から学ぶのみならず自ら本で調べたりしながら、講義をヒントに新たな世界を切り開いていくことが本当に大切なスタンスであることがわかりました。こういった点で、今後はこの心を大切に授業を大切に受けたいと思います。

●体系的な専門基礎科目と教員の趣味に近いものが結構はっきりしていた印象があります。

○シラバスには高校でその科目を学習していなかった人向けの授業と書いてあったのに、実際の講義は高校で学習していることを前提に進められたため、全く分かりませんでした。これはぜひ改善してほしいと思います。

●自分からなにも働かないで、大学が何かを与えてくれるものだという考えでは甘いということがわかりました。大学の教育の質が悪い、というわけではなく、「勉強する」という姿勢について一年を通して考えが変わりました。学問というのは決して教わることを期待した受け身の姿勢、すなわち「他律」の態度では修まるものではなく、「自律」的に、より積極的な姿勢がないといくら講義を受けて、いい点数を取ってもダメなんだ、ということがわかりました。高校までの勉強と大学からの勉強の違いを感じました。自分がどれだけ「自律」的態度で勉強できるか自分でもわかりませんが、大学をうまく利用して勉強したいと思います。

●全学共通科目を履修して思ったことは、いかに自分が知らないことが多いか、またそれらを一つ一つ満足いくまで学ぶには大変な根気と努力が必要だということでした。しかし、これらの科目がたとえ自分の専攻や将来、就職と関係なくても、考えることや知ることによって人生をより豊かなものにできると思いました。

●つまらなくても（後々の楽しいと思われる勉学のために）勉強せねばならないものは厳然として存在することを理解した。勉強することが必ずしも必要なくても、楽しいものは必ずあるが、その数は決して多くないことを理解した。

英語は到達すべき目標などの見通しが立たず、勉強しにくかった。

ポケット・ゼミで様々な分野の第一線の先生からフェイス・トゥ・フェイスでお話を聞いたのは非常によかった。大学に来て良かったと思った。

- 大学での勉強に壁を感じた部分もあった。
- 講義に出席したあと、自分で興味を持って自分から勉強する姿勢ができていないのが情けないと思う。
- どの授業もあまり自分の教養を深めるのに役立った気がしなかった（たとえ成績が優であったとしても）。
- 様々な印象的な経験や出会いがありました。そのような機会を与えていただき、ありがとうございました。
- 自分の知らない世界の話聞く機会が多く得られたのがよかったと思う。
- 色々な分野の概説を聞くことで、視野が広がった気がします。
- クラス指定科目と自分のとりたい科目が同じ時間帯にあったのでどちらか一方を我慢せざるを得なかったことが少し残念でした。
- 入学当初と比べると勉強に対するモチベーションが下がってしまっている。授業は指定科目を中心に受講したが、もっと自分の関心事にかかわるような授業をせんとくすればよかったと思う。



- 2 成績評価が甘すぎる
  - 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
  - 4 成績評価の基準・方法が不公正である
  - 5 その他（自由記述）
- 上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）（    ）

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

**A（満足した科目）**

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

**科目1**

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（    ）

（以下、科目2、3も同様）

**B（不満だった科目）**

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

**科目1**

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった







平成23年度  
2回生進級時アンケート

---

平成23年10月 発行

編集 京都大学高等教育研究開発推進機構

発行 京都大学学務部共通教育推進課  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
Tel 075-753-6513

---